

第5章

木工事（構造）施工計画書（実建物版）

第5章 木工事（構造）施工計画書

本章では、非住宅・木造低層小規模建築物の木工事（構造）で有用な「木工事（構造）施工計画書」の実建物を対象に作成した例を紹介します。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

無記入の様式は、（公財）日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

<https://www.howtec.or.jp/files/libs/6094/202504111556214803.xlsx>



(令和6年度改訂版)

●●●●新築工事

木工事(構造)施工計画書

令和●●年 ●●月

承 諾	

請負者 ●●建設 株式会社

現場代理人	

※本計画書は、実施工物件(2階建て588㎡・その他建築物の保育園)を対象とした作成例(青字)を示します。
※無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

目 次

木工事(構造)施工計画書

1 総則

- 1.1 適用範囲
- 1.2 適用図書
- 1.3 疑義、変更
- 1.4 その他

2 工事概要

3 工程表

4 施工管理体制

5 材料調達

- 5.1 数量調書
- 5.2 材料の合法性確認書類

6 施工要領

- 6.1 施工フロー
- 6.2 構造材の施工数量
- 6.3 木材の品質管理
- 6.4 木材加工の品質管理
- 6.5 接合金物等の品質管理
- 6.6 アンカーボルトの施工の品質管理
- 6.7 建て方の施工計画
- 6.8 建て方の施工精度
- 6.9 接合部の品質管理
- 6.10 耐力壁の品質管理
- 6.11 水平構面の品質管理
- 6.12 防腐・防蟻の品質管理

7 安全・衛生管理

木工事(構造)施工計画書関連図書

8 プレカット図

1 総則

1.1 適用範囲 (No.29)

※本手引きでは解説の便宜上、図書一覧のNo.を付しています。

本施工計画書は●●●●新築工事における
木工事(構造)の現場施工管理方針として適用する。

1.2 適用図書 (No.30)

本工事は下記の仕様書及び設計図に基づいて施工する。

その施工に当たっての優先順位は、下記による。

- (1) 質疑回答書、現場説明書、追加変更指示書
- (2) 本工事の建築設計図書及び特記仕様書
- (3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築木造工事標準仕様書(令和4年版)
- (4) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)
- (5) (一社)中大規模木造プレカット技術協会
木質工事特記仕様書、木造軸組接合部標準図(令和4年版)

1.3 疑義、変更 (No.31)

本施工計画書に記載なき事項や、記載事項の質疑変更に関しては監理者・
工事担当者との協議の上で承諾を得て施工する。

1.4 その他 (No.32)

本施工計画書に基づく工事内容及び作業の進め方等について、
協力会社及び作業員に周知徹底させて施工品質の確保に用いる。

2 工事概要 (No.33)

工事名称	●●●●新築工事
工事場所	東京都●●市●● ●—●—●
発注者	●●●●
設計者	一級建築士事務所 ●●●●
監理者	一級建築士事務所 ●●●●
請負者	●●建設株式会社
工期	平成26年6月中旬～平成26年3月6日
主要用途	保育所
地域	第1種低層住居専用地域 建ぺい率 40%(角地緩和10%) 容積率 80%
建物の構造	木造
建物規模	地上2階
基礎構造	布基礎
防耐火性能	その他の建築物
敷地面積	1,169.30㎡
建築面積	564.09㎡
延床面積	588.65㎡
建物の高さ	最高軒高 GL+5.114m 最高高さ +6.98m

3 工程表 (No.34)

- ・別紙(p.27)の工程表による。
- ・本計画は小規模かつ汎用的な木構造工事であるため、総合施工計画書の工程表(No.6)と兼用する。

4 施工管理体制 (No.35)

・総合施工計画書の4.1 管理体制図(p.29)による。

5 材料調達

5.1 数量調書 (No.36)

- ・別紙(p.51～54)の数量調書による。

5.2 材料の合法性確認書類 (No.37)

- ・木材等を譲り受ける際に提供された書類等により木材等の合法性の確認をする(本事例では省略)。

5.1 数量調書 (No.36)

【構造材】

No.	区分		材種		規格	備考	本数	単位	立米
1	土台	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	6	本	0.3456
2	土台	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	1	本	0.0432
3	土台	1F	米ヒバ	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	72	本	4.1472
4	土台	1F	EW(杉)	E120F330化粧	120 × 120 × 4000	JAS	14	本	0.8064
5	桁・梁	2F	杉	特1等(乾燥)	90 × 180 × 4000	JAS	7	本	0.4536
6	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 270 × 5000	JAS	2	本	0.3240
7	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 270 × 4000	JAS	1	本	0.1296
8	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 240 × 6000	JAS	1	本	0.1728
9	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 240 × 5000	JAS	2	本	0.2880
10	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 4000	JAS	3	本	0.3024
11	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 3000	JAS	5	本	0.3780
12	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 4000	JAS	36	本	3.1104
13	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 3000	JAS	1	本	0.0648
14	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 5000	JAS	7	本	0.6300
15	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 4000	JAS	24	本	1.7280
16	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 3000	JAS	12	本	0.6480
17	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	80	本	4.6080
18	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	1	本	0.0432
19	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 4000	JAS	2	本	0.1728
20	桁・梁	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 4000	JAS	11	本	0.7920
21	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 330 × 4000	JAS	1	本	0.1980
22	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 240 × 5000	JAS	3	本	0.5400
23	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 240 × 4000	JAS	3	本	0.4320
24	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 210 × 4000	JAS	2	本	0.2520
25	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 180 × 4000	JAS	1	本	0.1080
26	桁・梁	2F	EW(DF)	E120F330	150 × 150 × 4000	JAS	1	本	0.0900
27	桁・梁	2F	EW(杉)	E120F330化粧	150 × 150 × 4000	JAS	1	本	0.0900
28	桁・梁	2F	EW(杉)	E120F330化粧	120 × 180 × 4000	JAS	2	本	0.1728
29	桁・梁	3F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 4000	JAS	3	本	0.3024
30	桁・梁	3F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	8	本	0.4608
31	桁・梁	3F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	1	本	0.0432
32	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 300 × 5000	JAS	1	本	0.1800
33	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 300 × 4000	JAS	1	本	0.1440
34	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 270 × 6000	JAS	10	本	1.9440
35	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 270 × 5000	JAS	2	本	0.3240
36	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 270 × 4000	JAS	2	本	0.2592
37	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 6000	JAS	1	本	0.1512
38	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 5000	JAS	1	本	0.1260
39	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 4000	JAS	1	本	0.1008
40	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 3000	JAS	5	本	0.3780
41	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 6000	JAS	4	本	0.5184
42	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 5000	JAS	4	本	0.4320
43	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 4000	JAS	59	本	5.0976
44	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 3000	JAS	3	本	0.1944
45	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 4000	JAS	2	本	0.1440
46	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 150 × 3000	JAS	1	本	0.0540
47	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	14	本	0.8064
48	母屋	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	23	本	0.9936
49	母屋	1F	EW(DF)	E120F330	150 × 300 × 4000	JAS	1	本	0.1800

No.	区分		材種		規格	備考	本数	単位	立米
50	母屋	1F	EW(DF)	E120F330	150 × 180 × 6000	JAS	4	本	0.6480
51	母屋	1F	EW(DF)	E120F330	150 × 180 × 5000	JAS	4	本	0.5400
52	母屋	1F	EW(DF)	E120F330	150 × 180 × 4000	JAS	2	本	0.2160
53	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 6000	JAS	5	本	0.7560
54	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 5000	JAS	1	本	0.1260
55	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 4000	JAS	1	本	0.1008
56	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 210 × 3000	JAS	3	本	0.2268
57	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 5000	JAS	1	本	0.1080
58	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 4000	JAS	8	本	0.6912
59	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 3000	JAS	1	本	0.0648
60	母屋	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	4	本	0.1728
61	棟木	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 5000	JAS	1	本	0.1080
62	棟木	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 4000	JAS	2	本	0.1728
63	棟木	1F	米松	特1等(乾燥)	120 × 180 × 3000	JAS	2	本	0.1296
64	棟木	2F	米松	特1等(乾燥)	120 × 240 × 3000	JAS	4	本	0.3456
横架材計									38.3112
65	通し柱	1F	EW(杉)	化粧材	150 × 150 × 4000	JAS	18	本	1.6200
66	管柱	1F	EW(杉)	化粧材	150 × 150 × 3000	JAS	5	本	0.3375
67	管柱	1F	EW(杉)	化粧材	120 × 120 × 4000	JAS	2	本	0.1152
68	管柱	1F	EW(杉)	化粧材	120 × 120 × 3000	JAS	25	本	1.0800
69	管柱	1F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 6000	JAS	23	本	1.9872
70	管柱	1F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	35	本	2.0160
71	管柱	1F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	151	本	6.5232
72	管柱	2F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 4000	JAS	17	本	0.9792
73	管柱	2F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	28	本	1.2096
74	地束	1F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	1	本	0.0432
75	束	1F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	13	本	0.5616
76	束	2F	杉(無背割り)	特1等(乾燥)	120 × 120 × 3000	JAS	4	本	0.1728
柱材計									16.6455
構造材合計									54.9567

製材	国産材	13.9464
	外材	33.5844
	製材計	47.5308
集成材	国産材	4.2219
	外材	3.2040
	集成材計	7.4259
	合計	54.9567

【羽柄材】

No.	区分		材種		規格		備考	本数	単位	立米
1	隅木	1F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	150 × 4000	JAS	2	本	0.1440
2	谷木	1F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	150 × 4000	JAS	5	本	0.3600
3	根太	2F	杉	特1等(乾燥)	60 ×	180 × 3000		14	本	0.4536
4	根太	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	150 × 3000		14	本	0.2842
5	根太	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	90 × 3000		1	本	0.0122
6	根太	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	60 × 4000		1	本	0.0108
7	根太	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	60 × 3000		25	本	0.2025
8	間柱	1F	桧	積層	120 ×	45 × 4000		2	本	0.0432
9	間柱	1F	桧	積層	120 ×	45 × 3000		80	本	1.2960
10	間柱	1F	桧	積層	120 ×	30 × 4000		4	本	0.0576
11	間柱	1F	桧	積層	120 ×	30 × 3000		190	本	2.0520
12	間柱	2F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 4000		1	本	0.0216
13	間柱	2F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 3000		45	本	0.7290
14	間柱	2F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	30 × 4000		4	本	0.0576
15	間柱	2F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	30 × 3000		110	本	1.1880
16	間柱	3F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 3000		1	本	0.0162
17	間柱	3F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	30 × 3000		3	本	0.0324
18	垂木	1F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	120 × 4000		93	本	2.0088
19	垂木	1F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	120 × 3000		536	本	8.6832
20	垂木	1F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	60 × 3000		13	本	0.1053
21	垂木	1F	杉	特1等(乾燥)ケラバ	45 ×	120 × 3000		32	本	0.5184
22	垂木	1F	杉	転び止め	45 ×	120 × 3000		30	本	0.4860
23	垂木	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	120 × 4000		50	本	1.0800
24	垂木	2F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	120 × 3000		25	本	0.4050
25	垂木	2F	杉	転び止め	45 ×	150 × 3000		4	本	0.0812
26	垂木	2F	杉	転び止め	45 ×	130 × 3000		6	本	0.1056
27	窓台・窓まぐさ	1F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 3000		62	本	1.0044
28	窓台・窓まぐさ	2F	米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 3000		21	本	0.3402
29	垂木掛	1F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	105 × 4000		18	本	0.3402
30	垂木掛	1F	杉	特1等(乾燥)	45 ×	105 × 3000		20	本	0.2840
31	床パネル		ラーチ	F☆☆☆☆	24 ×	910 × 1820	実付	56	枚	0.0000
32	間柱		米松	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 3000		15	本	0.2430
33	間柱		米松	特1等(乾燥)	120 ×	30 × 3000		15	本	0.1620
34	垂木裏パッキン		杉	特1等(乾燥)	60 ×	30 × 3000		1	本	0.0054
35	垂木裏パッキン		杉	特1等(乾燥)	60 ×	30 × 3000		1	本	0.0054
36	垂木裏パッキン		杉	特1等(乾燥)	60 ×	30 × 3000		1	本	0.0054
37	頂部裏パッキン		杉	特1等(乾燥)	120 ×	45 × 4000		12	本	0.2592
38	野地パネル	1F	ラーチ	F☆☆☆☆	12 ×	900 × 1800	実無	445	枚	8.6330
39	野地パネル	2F	ラーチ	F☆☆☆☆	12 ×	900 × 1800	実無	65	枚	1.2610
40	床パネル	2F	捨て貼用		9 ×	900 × 1800	実無	54	枚	0.7884
羽柄材合計									33.7660	

6 施工要領

6.1 施工フロー (No.38)

- ・着工前準備、施工計画、材料調達、施工の段階ごとに実施する作業内容とその流れを整理する。
(本事例では省略)

6.2 構造材の施工数量(木材の数量把握が必要な場合のみ) (No.39)

木材の区分	材積(m ³)	備考
■ 製材	47.53	うち、国産材13.95m ³
■ 集成材	7.43	うち、国産材4.22m ³
□その他	0.00	
計	54.96	
特記	建て方に使用する材の材積を示す	

6.3 木材の品質管理

6.3.1 使用する木質材料の仕様 (No.40)

■JAS構造用製材

部位	樹種	区分		含水率	保存処理	材面の美観	備考
		目視等級区分	機械等級区分				
柱	<input checked="" type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> 乙種	<input type="checkbox"/> 1級	<input checked="" type="checkbox"/> E70	<input type="checkbox"/> SD15	<input type="checkbox"/> K3	120×120
	<input type="checkbox"/> ヒノキ		<input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 3級	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> 他 <input checked="" type="checkbox"/> なし	
梁	<input type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> 甲種Ⅰ	<input type="checkbox"/> 1級	<input type="checkbox"/> E70	<input type="checkbox"/> SD15	<input type="checkbox"/> K3	
	<input type="checkbox"/> ヒノキ <input checked="" type="checkbox"/> ベイマツ	<input type="checkbox"/> 甲種Ⅱ	<input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 3級	<input checked="" type="checkbox"/> E110	<input checked="" type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> 他 <input checked="" type="checkbox"/> なし	
土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ				<input type="checkbox"/> SD15	<input type="checkbox"/> K3	
	<input checked="" type="checkbox"/> ベイヒバ			<input checked="" type="checkbox"/> E90	<input checked="" type="checkbox"/> SD20	<input type="checkbox"/> 他	
	<input checked="" type="checkbox"/> ベイマツ			<input checked="" type="checkbox"/> E110	<input type="checkbox"/> SD25	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

□地域認証材

認証制度名 ○○県産材認証制度						
部位	樹種	含水率	ヤング係数	材面の美観		備考
柱	<input type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> SD20	<input type="checkbox"/> E70	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		
梁	<input type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> SD20	<input type="checkbox"/> E70	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		
土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD20		<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD25		<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		

□無等級材

部位	樹種	含水率	ヤング係数	材面の美観		備考
柱・束	<input type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> SD20	<input type="checkbox"/> E70相当	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		
梁・母屋 ・棟木	<input type="checkbox"/> スギ	<input type="checkbox"/> SD20	<input type="checkbox"/> E70相当	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> E90相当	<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		
	<input type="checkbox"/> ベイマツ					
土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD20		<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD25		<input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等		

■構造用集成材

部位	樹種	品名	強度等級	材面の品質	接着性能 (使用環境)	ホルムアル デヒド放散量	備考
柱	<input checked="" type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input checked="" type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材	E65-F255	<input type="checkbox"/> 1種 <input checked="" type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	化粧柱
梁	<input checked="" type="checkbox"/> スギ <input checked="" type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input checked="" type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input checked="" type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材	E65-F255	<input type="checkbox"/> 1種 <input checked="" type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材	E120-F330	<input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材		<input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

□構造用単板積層材(LVL)

部位	樹種	品名	曲げ性能	水平せん断性能	接着性能 (使用環境)	ホルムアル デヒド放散量	備考
<input type="checkbox"/> 柱 <input type="checkbox"/> 梁 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> カラマツ	<input type="checkbox"/> A種構造用 単板積層材 <input type="checkbox"/> B種構造用 単板積層材			<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

□直交集成板(CLT)

部位	樹種	規格	厚さ	接着剤	接着性能 (使用環境)	ホルムアル デヒド放散量	備考
<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> スギ			<input type="checkbox"/> イソ <input type="checkbox"/> レゾ	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

■ 構造用面材

■ 構造用合板

部位	樹種	等級(板面の品質)	接着の程度	厚さ	ホルムアルデヒド放散量	備考
耐力壁	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
2階以上の床 (水平構面)	<input checked="" type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 12mm <input checked="" type="checkbox"/> 24mm <input type="checkbox"/> 28mm	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
屋根 (水平構面)	<input checked="" type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 24mm	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
小屋 (水平構面)	<input checked="" type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 2級(C-D)	<input checked="" type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 24mm	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

■ 合板以外の面材

部位	種別	厚さ	サイズ	規格(JIS)	認定番号	メーカー
耐力壁	<input type="checkbox"/> OSB <input type="checkbox"/> 繊維板(MDF) <input type="checkbox"/> パーティクルボード <input checked="" type="checkbox"/> 不燃化粧板 <input type="checkbox"/> 火山性ガラス質複層板	<input checked="" type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 908×3030 <input checked="" type="checkbox"/> 910×3030		昭和56年建設省告示第1100号 平成9年建設省富住指発第9号	双日建材 (モイス)
2階以上の床 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
屋根 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
小屋 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			

6.3.2 木質材料の品質管理方法 (No.41)

■JAS構造用製材・JASに準じた規格のある地域認証材・構造用集成材等

検査時期	<input type="checkbox"/> 製品検査時 <input checked="" type="checkbox"/> 現場受入時
検査内容	・指定された品質の製材である事をJASラベル又はJAS印字等で確認 ・耐力上欠点となる節、腐れ、割れ等がないことを確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input checked="" type="checkbox"/> 監理者 <input checked="" type="checkbox"/> 監督職員

□無等級材・JASに準じた規格のない地域認証材(公共建築木造工事標準仕様書5.2.2)

検査時期	加工前	
検査内容	材面の欠点	測定数: <input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> 抜き取り(〇〇%) 方法 :目視による材の欠点等の確認
	含水率	測定数: <input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> 抜き取り(〇〇%) 方法 :高周波水分計、6か所の平均値
	無等級材の基準強度を満たしていることの確認(縦振動ヤング係数等の測定)	測定の有無: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 測定の対象部材:[] 測定方法: <input type="checkbox"/> 縦振動法 <input type="checkbox"/> その他[] 測定数: <input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> 抜き取り(〇〇%)
検査報告	<input type="checkbox"/> 工事写真 <input type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/> 材料検査報告書	
検査立合	<input type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員	

■構造用合板

検査時期	現場受入時
検査内容	・指定された品質の構造用合板である事をJASラベル又はJAS印字で確認 ・著しい反り、ねじれ等、耐力に影響する変形が生じていないことを確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/>

6.4 木材加工の品質管理

6.4.1 木材加工の品質・仕様 (No.42)

■ 製材の寸法許容差((一社)中大規模木造プレカット技術協会仕様)

区分		表示寸法と測定寸法の差
木口の短辺及び長辺	75mm未満	+1.0mm -0mm (SD15は-0.5mm)
	75mm以上	+1.5mm -0mm (SD15は-0.5mm)
材長		±1.0mm

■ 構造用集成材の寸法許容差((一社)中大規模木造プレカット技術協会仕様)

区分		表示寸法と測定寸法の差	
短辺	大断面	±1.5mm	
	中断面及び小断面	+1.5mm -0.5mm	
長辺	大断面	800mm未満	±1.5% ただし±2.0mmを超えないこと
		800mm以上	±1.5% ただし±3.0mmを超えないこと
	中断面及び小断面	300mm以下	+1.5mm -0.5mm
		300mm超	±0.5% ただし+5.0mm -3.0mmを超えないこと
はりの曲がり		$e \leq L/1000$ $e \leq 10\text{mm}$	
材長	継手仕口・金物工法	±1.0mm	
	ボルト接合方法	材長の±0.04%	

■ 孔あけ等の加工精度の基準(公共建築木造工事標準仕様書5.4.3(ボルト(引張)除く))

孔あけ加工		精度
ボルト	せん断	ボルトの径16mm未満:ボルト径+1.0mm
		ボルトの径16mm以上:ボルト径+2.0mm
	引張	ボルトの径20mm未満:ボルト径+3.0mm
		ボルトの径20mm以上:ボルト径+5.0mm
ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)		胴部:胴部径と同径、長さは胴部長さまで スクリュー部:スクリュー径の50~70%、長さはスクリュー部の長さ
ドリフトピン・木栓		ドリフトピン・木栓と同径

■ 表面仕上げの仕様(公共建築木造工事標準仕様書5.4.4)

加工方法	仕上げの程度
機械加工(製材)	<input type="checkbox"/> A種:超自動機械かんな掛け仕上げ
	<input checked="" type="checkbox"/> B種:自動機械かんな掛け仕上げ
	<input type="checkbox"/> C種:サンダー掛け仕上げ
機械加工(集成材)	<input type="checkbox"/> A種:サンダー掛け仕上げ
	<input checked="" type="checkbox"/> B種:自動機械かんな掛け仕上げ

■ 木材保護塗装

項目	内容
塗装箇所	見え掛かりとなる構造材（1階軒下化粧柱等）
使用する塗料の メーカー・製品名	オスモ&エーデル(株) ウッドステインプロテクター 2回塗り

不燃処理木材等

不燃材料、準不燃材料又は難燃材料を使用する場合は、特記による。

6.4.2 木材加工の品質管理方法 (No.43)

検査時期	加工後
検査内容	部材寸法、孔あけ加工寸法、表面仕上げ、塗装等の確認
検査報告	■ 工事写真 ■ 出荷証明書
検査立合	■ 元請業者 ■ 監理者 □ 監督職員

6.5 接合金物等の品質管理

6.5.1 使用する主な接合具・接合金物の仕様 (No.44)

■釘

種類	規格	備考
<input checked="" type="checkbox"/> N釘	<input checked="" type="checkbox"/> N50 <input checked="" type="checkbox"/> N75 <input checked="" type="checkbox"/> N90 <input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> CN釘	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	

木質構造用ビス

メーカー名	製品名	備考

■ボルト・ナット・座金

種類	材質	径(mm)	仕様	備考
<input checked="" type="checkbox"/> 六角ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16	<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> アンカーボルト	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16	<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> 座金	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12用	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16用	<input type="checkbox"/>	

■ドリフトピン・ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)・木栓

種類	材質	径(mm)	仕様	備考
<input checked="" type="checkbox"/> ドリフトピン	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄	<input checked="" type="checkbox"/> 12		
<input type="checkbox"/> ラグスクリュー	<input type="checkbox"/> 鉄			
<input type="checkbox"/> 木栓	<input type="checkbox"/> 堅木			

■使用する接合金物

種類	仕様	メーカー	品名	備考
<input checked="" type="checkbox"/> ホールダウン金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 山形プレート	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> かど金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 短冊金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 羽子板ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 筋かいプレート	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	

その他の金物(鋼製火打・鋼製ブレース・制震金物等)

種類	メーカー	品名	備考
鋼製火打			

6.5.2 接合金物等の品質管理方法 (No.45)

検査時期	現場受入時
検査内容	指定された製品である事を梱包及び出荷証明書で確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/>

6.6 アンカーボルトの施工の品質管理

6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準 (No.46)

内容	基準	
土台の孔あけ径	■M12	13mm (12mm + 1mm) ※
	■M16	18mm (16mm + 2mm) ※
アンカーボルトの位置 (通り芯からの許容誤差)	<input type="checkbox"/> -3mmから+3mm <input checked="" type="checkbox"/> -5mmから+5mm ※ <input type="checkbox"/> 土台の中心から土台幅の1/3以内	
アンカーボルトの高さ (基準高さからの許容誤差)	<input type="checkbox"/> -3mmから+3mm <input checked="" type="checkbox"/> -5mmから+5mm ※	
アンカーボルトのコンクリート基礎への定着長さ (フック付き)	■M12	250mm以上
	■M16	<input checked="" type="checkbox"/> 360mm以上 (25kN以下) (株)タナカ オメガアンカー 埋込み長さ200mm <input type="checkbox"/> 510mm以上 (25kN超35.5kN以下)
アンカーボルトの保持及び埋込み工法	<input type="checkbox"/> A種 ※	アンカーボルトの径に適した形鋼等を用いて、アンカーボルトの上下を固定できるように、鉄筋等で補強して堅固に組み立て、あらかじめ設けた支持材に固定して、コンクリートの打ち込みを行う
	<input checked="" type="checkbox"/> B種 ※	アンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で、型枠の類に固定し、コンクリートの打ち込みを行う

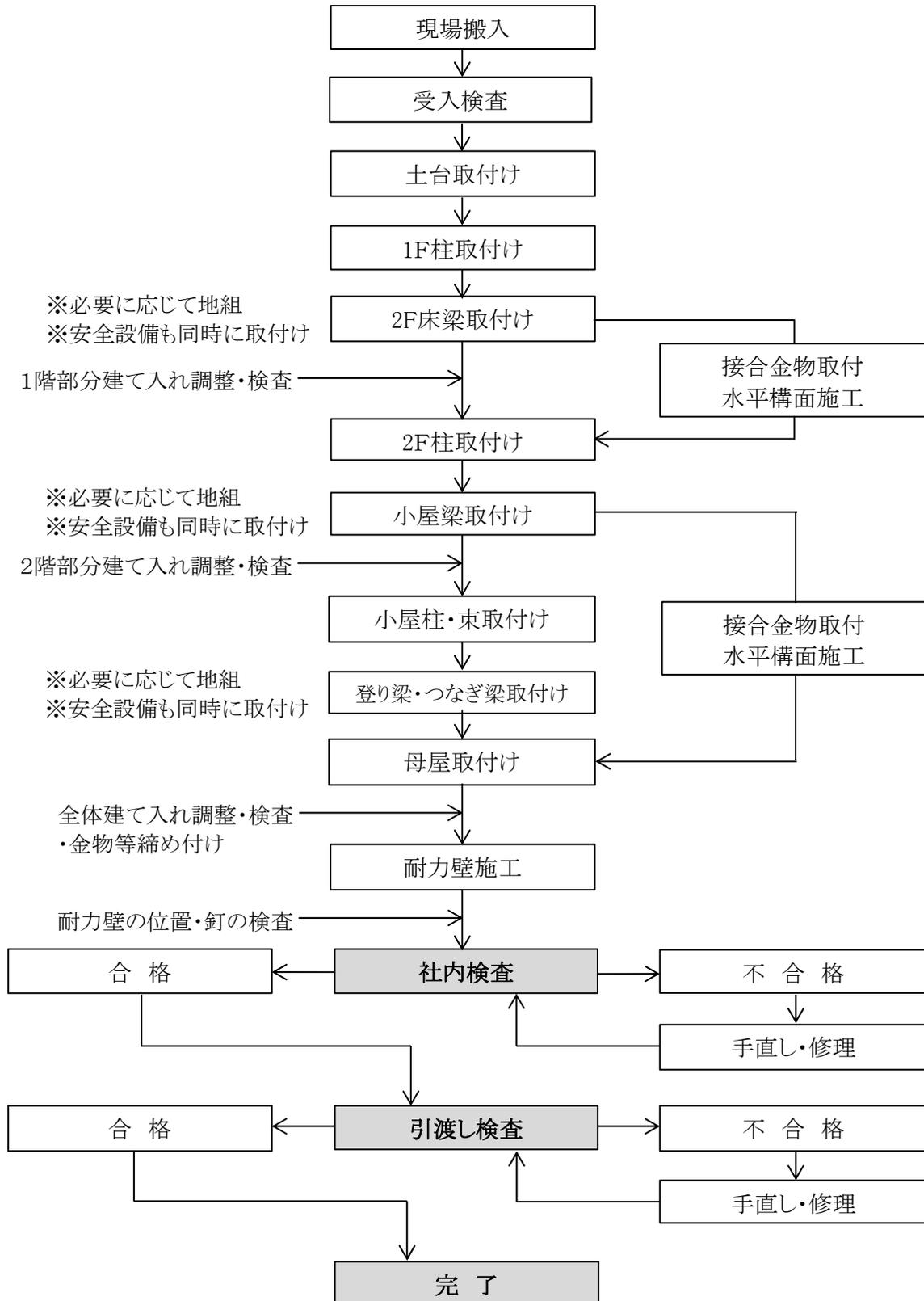
※公共建築木造工事標準仕様書5.4.3、5.5.3

6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法 (No.47)

検査時期	アンカーボルト設置後 (コンクリート打設前)
検査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土台の孔あけ位置・径 ・アンカーボルトの位置、土台からの高さ、定着長さ ・アンカーボルトの保持状態
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 図面 (検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.7 建て方の施工計画

6.7.1 建て方フロー (No.48)



6.7.2 建て方計画図 (No.49)

・別紙(p.66)の建て方計画図による。

6.7.3 搬入計画 (No.50)

・搬入計画は、建設工事における製材などの部材の輸送から搬入について計画する。実施に関しては関係法令諸規定に従って、安全かつ丁寧に輸送する。

(1) 使用車両と搬入部材

出発地点	使用車両	搬入部材
●●●●株式会社●●工場	4tロング	製材・集成材等

(2) 発送・搬入

- ・道路状況及び交通規制を調査し、各種許可申請が必要な場合は、これを取得する。
- ・発送時に運搬車両毎の部材リストを作成し、運搬部材の受け入れ管理を行う。
- ・建物規模に応じて工区を区分する場合は、工区ごとに搬入する部材の分類を行い、関係者間で計画の調整を十分に行う。
- ・搬入時の場外待機場所の有無を確認し、関係者間で対応方法の確認を行う。
- ・現場での入退場は、当社の指示・誘導による。
- ・現場での入退場に際しては、第三者に対する安全を確保し、必要に応じて誘導員を配置する。
- ・事情により途中で積み替え等を行う場合は、各種法令を遵守し、安全に積み替え作業が行える場所を確保する。

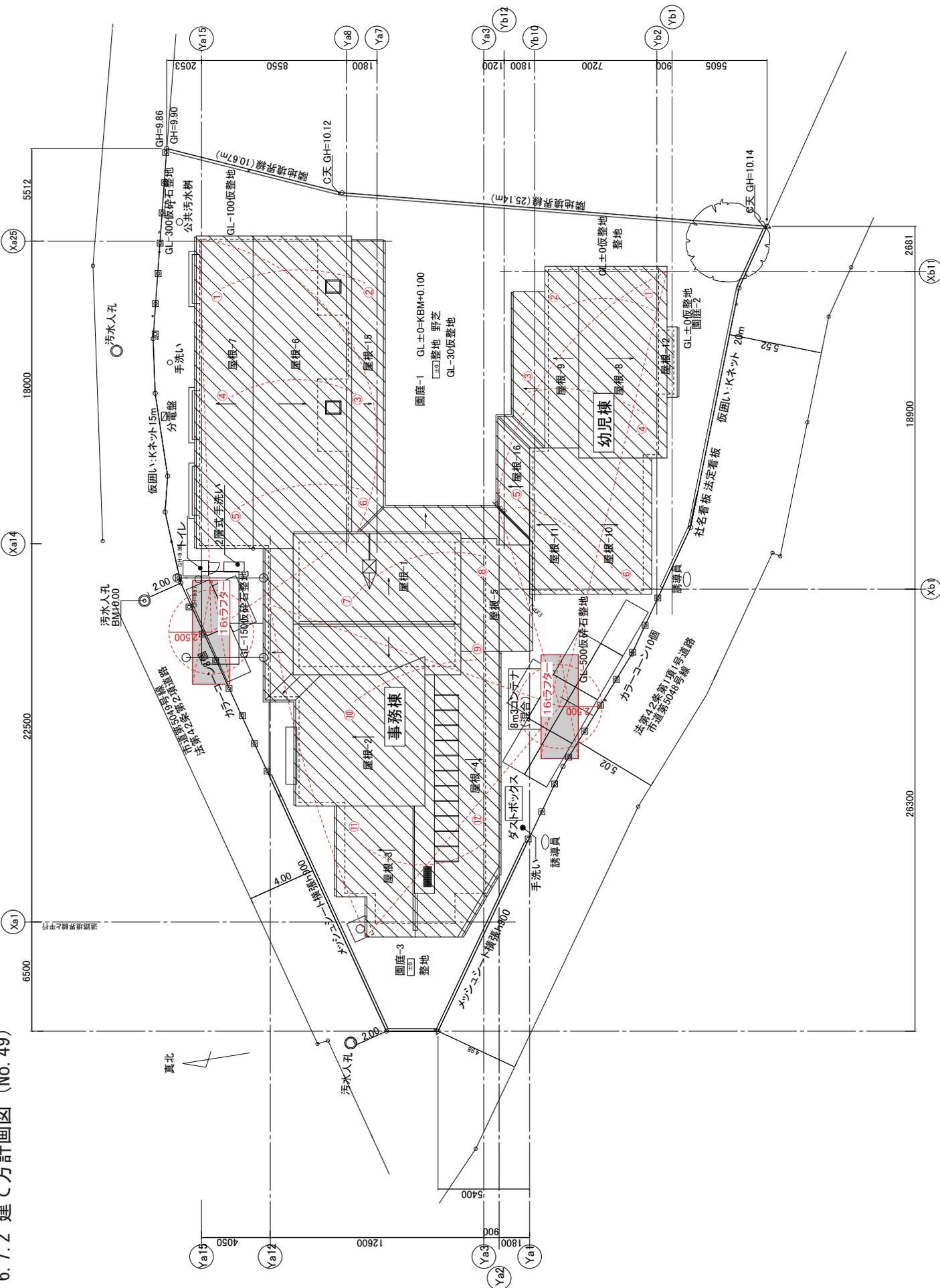
(3) 荷降ろし

- ・作業指揮者を選任し、その指揮の下で荷降ろし作業を実施する。
- ・吊り荷重に応じて、荷降ろしに用いる道具類を確認する。
- ・玉掛け作業は、有資格者によって行う。
- ・部材置場は建て方計画図に示す。

(4) 現場での保管

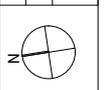
- ・現場搬入された部材は地面に直接置かず、平坦な場所に台木等を敷き、その上に水平に保管する。
- ・保管する木材の樹種や長さにより、台木等の跡が付く場合があることから、台木等の本数、間隔、緩衝材の要否は専門業者等と協議の上、定める。
- ・金物類も地面には直接置かず、平坦な場所にパレット等を置き、その上に保管し、養生シート等で覆う。
- ・木材保存剤は水に溶脱し易いため、現場搬入以後の薬剤の溶脱を防止するための養生方法は専門業者等と協議し、十分に検討する。
- ・地域認証材や森林認証材等、複数の規格の異なる認証材等を取り扱う場合には、これらが煩雑にならないよう視覚的に識別しやすくすることや、エリアを区分して管理する等、仕分け管理に十分注意する。

6.7.2 建て方計画図 (No. 49)



凡例	○	汚水人孔
	○	手洗い
特記	○	園庭-1
	○	園庭-2
別	○	事務棟
	○	幼児棟

○	汚水人孔
○	手洗い
○	園庭-1
○	園庭-2
○	事務棟
○	幼児棟



000000 保育園新築工事
 建て方計画図
 s=1/150
 20140228

特記	○	園庭-1
特記	○	園庭-2
特記	○	事務棟
特記	○	幼児棟

6.7.4 使用重機 (No.51)

項目	内容
使用重機	25tラフタークレーン
設置場所	建て方計画図参照
使用期間	令和●年●●月●●日～●●月●●日
作業時間	AM8:00～PM5:00

6.7.5 建て方の作業内容・留意点 (No.52)

作業項目	作業内容・留意点
①搬入仕分け	<ul style="list-style-type: none"> 部材の受け入れは工場からの明細と照合する。
②地組	<ul style="list-style-type: none"> 地組ヤードは砂利敷き等とし、作業員の足元の汚れが地組材に付着することを防止する。 架台の設置は水平になるように設置するまた、地組部材の組み立てに適した形状とする。 部材をセットする。
※トラス等の組立て精度を要する架構	<ul style="list-style-type: none"> 接合金物を取付ける。 地組部材の組み立て精度を計測し、記録をとる。 ボルト類の本締めを行う。 地組部材が運搬移動に耐えられるように補強する。 精度を再計測し、報告書に記載する。
③建て方	<ul style="list-style-type: none"> 土台にアンカーボルトの位置に合わせた孔あけを行い、土台を取り付ける。 ねこ土台がある場合は、メーカー施工要領書等に従いアンカーボルト、柱の直下、土台継手の下に確実に入れる。 土台設置後建て方まで雨天が予想される場合は、柱のほぞ穴等にテープ養生を行い雨水が穴に溜まらないようにする。 柱をベースプレートに立てる場合、ベースプレートのボルトを本締めした上で柱を立てる。 1階床合板を先行施工する場合は、天候に関わらず床面の養生を行う。 建て方順序は建て方計画図の記載順序に従う。 柱は当日梁を架設する範囲まで立てる(柱だけで立っている状態で作業を終了しない)。 建前カケヤ等により柱を土台ほぞ穴に確実に固定する。 梁は外周部の足場を利用して、外周部より架設する。 1階部分の建て入れ調整及び検査を行う。 仮筋かいを設置する。 羽子板ボルトや引き寄せ金物等の締め付けを行う。 2階床合板は2階柱を立てる前に設置する。 2階柱・梁の施工順序は1階と同様とする。 屋根架構を設置する。 基準風速や強風の実況に配慮して、垂木や小屋束などに接合金物を設置する。 当日屋根架構を設置する範囲に野地板を張る。 棟換気となる場合は、棟部で野地板が換気を妨げないように概ね60mm程度空けて留め付ける。 野地板を張る部分は当日中に防水シート張りを行う。防水シート張りが施工できない場合は養生シート等で覆う。 屋根架構まで終了した部分は建て入れチェックを行い、建て入れ修正を行う。

④建て入れ調整	・建て方途中でも建て入れ確認を行い、都度修正し、建て方を進める。
	・建て入れは下げ降りを垂らし(又は建て入れ計測器具を利用)、その垂直度を建て方精度基準に基づき確認し、建て入れを調整する。
	・建て入れ調整後は、戻り止めとして必ず仮筋かいを設ける。
⑤ボルト等の締め付け	・建て入れ調整後、本筋かい・構造用面材の本留付け及び柱頭・柱脚金物のボルトの締め付けを行う。スプリングワッシャーがつぶれるまで締め込む。
	・ドリフトピンは叩き込みによりピン穴に挿入する。

6.7.6 建て入れ測定 (No.53)

- ・建て入れの測定を行い、建て方精度基準に基づき調整を行う。許容範囲に入らない場合は監理者と協議し、適切な処置を行う。

6.7.7 社内検査 (No.54)

(1) 本締め確認

- ・建て入れ直しが完了した時点で全てのアンカーボルト及びビスが本締めされていることの確認を行う。
- ・ダブルナットをかけ、アンカーボルトの先端ねじがナットの外に3山以上出ていることを確認する。
- ・ボルト本締めの検査方法は、建て入れ調整完了後、目視によりボルトの出を確認する。

(2) 部材の汚れ・傷・割れの確認

- ・建て方中についた汚れ・傷について確認を行い、以下の方法にて処置を行う。
- ・ただし補修により色ムラが考えられる場合、監理者と協議の上補修作業を行う。

状況	補修方法
汚れ	布拭き
	漂白剤・薬剤の塗布
	ベルトサンダーによる表面研磨処理
傷	エポキシ系パテ埋め処理
	ベルトサンダーによる表面研磨処理

6.7.8 安全作業基準 (No.55)

(1) 墜落・落下防止設備

- ・高さが2m以上の場所で、墜落の恐れのある作業を行う場合は、足場を設け、作業床を確保する。
- ・高さが2m以上の作業床の端部、開口部等で墜落の恐れのある所には、囲い、手摺等を設ける。
- ・高さが1.5m以上の場所の作業には、昇降設備を設ける。
- ・安全带等を安全に取り付けるための設備等を設ける。(親綱、親綱支柱)
- ・脚立は最上段での作業禁止など、正しい使用方法を厳守する。

(2) クレーン作業

- ・荷の量、積卸し位置、クレーンの設置位置、操作の方法を確認する。
- ・鉄板等敷設の措置、アウトリガーの張り出しを確認する。
- ・強風時における荷崩れや転倒防止のため、天候には十分留意する。
- ・作業開始前に玉掛用ワイヤーロープ、布帯等を点検し、不具合のあるものは使用しない。
- ・木材の吊上げは、布帯等を用いるとともに、吊上げ位置には、必要に応じて保護治具を用いて傷等がつかないように吊上げ作業を行う。

- ・木材を吊上げる時は、吊り荷重を考慮する。また、必ず2点支持以上にて吊上げる。その際の吊り角度は60度以内とする。また、介錯ロープを設置する。
- ・クレーンで吊上げる場合は、フレームが地上から離れた時に巻上げを一時停止し、吊り荷の状態、風の影響等を確認後、吊上げを開始する。
- ・木材は、重量が軽い上に、梁等は表面積が大きく風の影響を受けやすいため、風が強い場合には吊上げ物のバランスについて特に安全を確認するとともに、クレーンの足元の設置状況や設置圧も十分に確認する。
- ・フレーム吊上げの際、無理な変形を生じることが予想される場合には、補強を施した上で吊上げ作業を行う。

6.7.9 養生計画 (No.56)

(1) 発送・搬入時

- ・運搬中の変形・破損を生じないように注意して積み込む。
- ・運搬方法、運搬距離、現場での保管期間等を考慮し、荷崩れや汚れ等に対する適切な養生計画を専門業者等と協議し、バンド等による梱包やシート等による養生等の対応を行う。
- ・荷降ろしに際しては、部材に汚れや損傷を与えないような措置を講ずる。

(2) 建て方前現場保管時

< 汚れ・雨対策 >

- ・雨、雪、粉塵等に晒されないように養生シート等で覆う。
- ・水の跳ね返りによる汚れ防止のため、シートを敷く等の対応も必要である。
- ・特に地面に近い部材は高含水率になり反りなど狂いを生じる可能性があるため、通風を確保するように保管する。
- ・工場出荷時の梱包は使用するまで極力外さない(ただし、多湿期などにおいてカビ等の発生の恐れがある場合には適切な通風の措置を施す)。
- ・木材はセメント等のアルカリに触れると変色するほか、鉄筋や鉄骨の錆、油分などが木の表面に付くと落ちない汚れとなるため、屋外に保管する際は特に注意が必要である。

< 変形・損傷が生じた場合の対応 >

- ・保管時に部材に変形や損傷が生じた場合には、専門業者等と協議の上、修正可能なものは建前方に修正し、修正不可能なものは直ちに交換する。

(3) 建て方時

< 損傷・汚れ・雨対策 >

- ・工事中に木材に傷が付かないように養生カバー等を適切な方法を用いて保護する。
- ・建て方中の仮置き部材には適当な台木等を使用し、直接地面に置かないようにし、養生シート等を掛ける。
- ・梁等の建て方に仮設受材(サポート)を使用する場合は、仮設受材のめり込みに注意し、仮設受材の間隔やクッション材を敷く等の対応を専門業者等と協議の上、定めることが必要である。
- ・楊重の際に大断面や長大部材の場合は、布帯等を使用しても自重によるめり込み、角の欠け等が生じやすいため、角当て材等の養生を検討することが必要である。
- ・木材に撥水性塗料の塗布や、シート巻等により保護する他、建物全体をシート等で覆うことも検討する。

<安全対策>

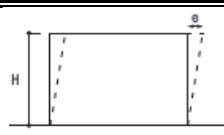
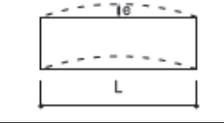
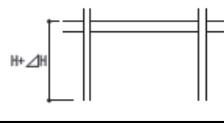
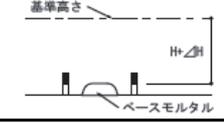
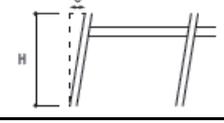
- 建て方の進捗に合わせて転倒防止として布帯等を介してワイヤーロープ等をたすきに張る。
ワイヤーロープは建て入れ直しと兼用とする。
- 建て入れ直し完了後は、戻り止めとして、梁柱間に仮筋かいを設ける。
- 作業終了時や天候等により建て方を一時中断する場合は、構造物の安全を確認し、必要に応じて仮筋かいを設ける。

(4)建て方後(屋根下地材施工前)

- 屋根葺材の施工完了前段階にて、必要に応じて床面や屋根面の合板をシートで覆い、雨がかりを防ぐ。
- 木材が仕上がり面となる場合は、日焼けや色むらを防止するため、養生シートで全面覆う等の養生の検討が必要である。
- 木材の出隅部分は損傷しやすいため、工事中の損傷及び汚染防止対策として、クッション材で被う等の対応が必要である。

6.8 建て方の施工精度

6.8.1 建て方の精度基準 (No.57)

内容	図	許容値
■建物の倒れ		■ $e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq H/4000 + 7\text{mm}$ かつ $e \leq 30\text{mm}$ ※2
		□ $e \leq H/1000$ ※3
■建物の湾曲		■ $e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq L/4000$ かつ $e \leq 20\text{mm}$ ※2
■階高		□ $-8\text{mm} \leq \Delta H \leq +8\text{mm}$ ※1
		■ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ ※2
■柱据付面の高さ		□ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ ※1
		■ $-3\text{mm} \leq \Delta H \leq +3\text{mm}$ ※2
■柱の倒れ		□ $e \leq H/700$ かつ $e \leq 15\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq H/1000$ かつ $e \leq 10\text{mm}$ ※2
		■ $e \leq H/1000$ ※3
■梁の水平度		■ $e \leq L/700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$ ※2
		□ $e \leq L/1000$ ※3

※1 日集協「中大規模木造建築の担い手講習テキスト」(令和2年10月)の「限界許容差」

※2 同テキストの「管理許容差」 ※3 公共建築木造工事標準仕様書

6.8.2 建て方の品質管理方法 (No.58)

検査時期	建て方後
検査内容	検査項目が許容値以内であることの確認
計測方法	下げ降り
計測範囲	各ブロック4面について 短辺方向: 主要な構造壁、間仕切壁は全数計測とする。 長辺方向: 両端及び中間は3.6~4.5mスパンごとに計測とする。
検査報告	■工事写真 ■図面(検査記録) □
検査立合	■元請業者 □監理者 □監督職員

6.9 接合部の品質管理

6.9.1 接合部の施工管理の内容 (No.59)

接合方法	管理項目	管理内容
■釘接合	種類、長さ、配置、数	指定された釘の種類、長さ、配置、数
	めり込み深さ	面材の厚みの10%未満かつ1mm以下
	端縁距離(へりあき)	面材へのへりあき:10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
		軸材へのへりあき:20mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
その他施工状態	打ち損じ、増し打ち処理、がたつき、主材・面材の割れ、金物との干渉等	
□木質構造用ねじ接合	種類、長さ、配置、数	指定された木質構造用ねじの種類、長さ、配置、数
	木材への先孔	径・深さ等はメーカー指定の方法への適合
	その他施工状態	がたつき、めりこみ、打ち損じ、材割れ等
■ボルト接合	種類、長さ、配置、数	指定されたボルトの種類、長さ、配置、数
	その他施工状態	座金のめりこみ、ねじ山の出(2~3山)、がたつき、緩み止め・戻り止め・木痩せ対応(スプリングワッシャ等)、埋木(防火被覆)
■ドリフトピン接合	種類、長さ、配置、数	指定されたドリフトピンの種類、長さ、配置、数
	施工状態	がたつき、材割れ、抜け対策、埋木等
□ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)	種類、長さ、配置、数	指定されたラグスクリューの種類、長さ、配置、数
	木材への先孔	径・深さ等はメーカー指定の方法への適合
	その他施工状態	がたつき、めりこみ、打ち損じ、材割れ、埋木等

6.9.2 接合部の品質管理方法 (No.60)

検査時期	<input type="checkbox"/> 施工時 <input checked="" type="checkbox"/> 施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 図面(検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.10 耐力壁の品質管理

6.10.1 耐力壁の仕様 (No.61)

■面材耐力壁

項目	内容		備考	
■大壁仕様	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 <input type="checkbox"/> 繊維板(MDF)		
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 9mm		
	留付け釘	<input type="checkbox"/> N50 <input type="checkbox"/> NZ50	<input type="checkbox"/> N50 <input type="checkbox"/> NZ50	
	壁倍率	<input type="checkbox"/> 2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.7倍 <input type="checkbox"/> 4.0倍	
	釘打ちの間隔	<input type="checkbox"/> @150 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> @75(外周) <input type="checkbox"/> @150(中通)	
	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 <input type="checkbox"/> 火山性ガラス質複層板 ■不燃化粧板		双日建材(モイス)
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm ■9mm		
	留付け釘	■N50 <input type="checkbox"/> SF50	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	
	壁倍率	<input type="checkbox"/> 2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.7倍 ■2.7倍	
	釘打ちの間隔	■@100(外周) ■@200(中通)	<input type="checkbox"/> @75 <input type="checkbox"/>	
■真壁仕様	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 ■不燃化粧板		双日建材(モイス)
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm ■9mm		
	受材の大きさ	45×90以上		
	留付け釘	■N50 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	
	壁倍率	<input type="checkbox"/> 2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.3倍 ■2.0倍	
	釘打ちの間隔	■@150(外周) ■@300(中通)	<input type="checkbox"/> @75 <input type="checkbox"/>	

■筋かい耐力壁

項目	内容	備考
材料区分	<input type="checkbox"/> JAS構造用製材 ■無等級材	
樹種	■スギ <input type="checkbox"/>	
寸法	○×○	
本数	<input type="checkbox"/> 片側 <input type="checkbox"/> たすき掛け	
倍率	○倍	
含水率	<input type="checkbox"/> 20%以下	
材面の品質	<input type="checkbox"/> 割れ等の欠点がないこと、丸みのないこと	

□鋼製ブレース耐力壁

項目	内容	備考
メーカー		
製品名		
倍率		

6.10.2 耐力壁の施工管理の内容 (No.62)

■面材耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	指定された配置
耐力壁の仕様	指定された面材、釘の種類、長さ、間隔
端縁距離(へりあき)	10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
面材への孔あけ	(一社)中大規模木造プレカット技術協会 木造軸組接合部標準図(4)貫通孔のルールに基づく
その他施工状態	受材、間柱、中棧の施工状態、貫通孔の施工状態、釘のめりこみ深さ

□筋かい耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	指定された配置
耐力壁の仕様	指定された筋かい
筋かい金物	指定の金物、留め付け方法
隙間	筋かいと柱・土台・梁との隙間は2mm以下
その他施工状態	筋かいと間柱との取り合い処置、筋かいと床合板との取り合い処置

□鋼製ブレース耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	メーカー指定の施工方法による

6.10.3 耐力壁の品質管理方法 (No.63)

検査時期	<input checked="" type="checkbox"/> 施工時 <input checked="" type="checkbox"/> 施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 図面(検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input checked="" type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.11 水平構面の品質管理

6.11.1 水平構面の仕様 (No.64)

項目		内容	
■2階以上の床	■構造用合板	床倍率	4.0倍
		面材	構造用合板24mm
		張り方	根太なし直張り四周くぎ打ち
		釘	N75@150
	□火打	材料	□木製 □鋼製
	□ブレース	材料	□鋼製
■屋根面	■構造用合板	床倍率	0.7倍
		勾配	3寸勾配 3.5/2.5
		面材	構造用合板12mm
		張り方	垂木@455転ばし
	釘	N50@150	
	□火打	材料	□木製 □鋼製

6.11.2 水平構面の施工管理の内容 (No.65)

■構造用合板

管理項目	管理内容
水平構面の仕様	指定された面材、張り方、釘の種類、長さ、間隔
端縁距離(へりあき)	10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
面材への孔あけ	(一社)中大規模木造プレカット技術協会 木造軸組接合部標準図(4)貫通孔のルールに基づく
その他施工状態	甲乙梁の施工状態、貫通孔の施工状態、釘のめりこみ深さ、耐力壁との取り合い

□鋼製火打・鋼製ブレース

管理項目	管理内容
施工方法	メーカー指定の施工方法による

6.11.3 水平構面の品質管理方法 (No.66)

検査時期	■施工時 ■施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	■工事写真 ■図面(検査記録) □
検査立合	■元請業者 □監理者 □監督職員

6.12 防腐・防蟻の品質管理

6.12.1 防腐・防蟻の仕様 (No.67)

■ 高耐久木材・保存処理材

使用部位	高耐久材	保存処理材		備考
<input checked="" type="checkbox"/> 土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> JAS保存処理材	<input type="checkbox"/> K4 <input type="checkbox"/> K3 <input type="checkbox"/> K2	
<input type="checkbox"/> 外壁の軸組	<input checked="" type="checkbox"/> ベイヒバ	<input type="checkbox"/> AQ認証保存処理材	<input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	
<input type="checkbox"/> 水廻り		<input type="checkbox"/> ホウ酸(加圧注入)		
<input type="checkbox"/> その他:				

■ 薬剤の現場塗布

塗布部位	薬剤の認定	メーカー・製品名	処理方法	処理量	備考
<input type="checkbox"/> 土台	<input type="checkbox"/> 日本しろあり対策協会 <input type="checkbox"/> 日本木材保存協会	アーテック工房(株) ヘルスコキュア (墨塗り)	<input checked="" type="checkbox"/> 塗布	<input checked="" type="checkbox"/> 1回塗り	
<input checked="" type="checkbox"/> 外壁の軸組GL+1m (合板・筋かい含む)			<input type="checkbox"/> 吹付		
<input type="checkbox"/> 水廻り			<input type="checkbox"/> 浸漬		
<input type="checkbox"/> その他:					

6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法 (No.68)

■ 高耐久木材・保存処理材

検査時期	<input type="checkbox"/> 製品検査時 <input type="checkbox"/> 現場受入時	
検査内容	<input checked="" type="checkbox"/> 高耐久木材	指定された樹種である事を出荷証明書又はJASラベル又はJAS印字で確認
	<input type="checkbox"/> JAS保存処理材	指定された品質の保存処理材である事をJASラベル又はJAS印字、試験成績書等の品質記録により確認
	<input type="checkbox"/> AQ認証保存処理材	指定された品質の保存処理材である事を認定書及び品質証明書、試験成績書等の品質記録により確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/>	
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員	

■ 薬剤の現場塗布

検査時期	施工後
検査内容	塗布部位、薬剤の種類、処理方法、処理量
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

7 安全・衛生管理

7.1 一般共通事項 (No.69)

- ・工事に先立ち、現場の運営管理に必要な、現場代理人を選任する。
- ・あらかじめ定められた工事計画書に基づいて、工事管理を行う。
- ・労働安全衛生法、その他の関係法令等に従って、工事現場の安全・衛生に関する管理を行う。
- ・工事に必要な、官公署その他への手続きは、速やかに行う。

7.2 現場の管理体制 (No.70)

- ・現場代理人は、工事に当たり、現場組織体制を定め、監理者の承諾を受ける。
- ・現場代理人は、工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を図る。
- ・工事に先立ち、当該工事に係る立地条件等を十分把握した上で、工事の内容に応じた適切な人材(監理技術者、主任技術者)を配置し、指揮命令系統の明確な現場体制を組むとともに、工事関係者に工事の内容や使用機器材の特徴等を周知させる。
- ・工事の一部を協力会社に請負させる場合は、必要に応じて協力会社から、施工要領書、組織作業手順書等の提出を求める。
- ・作業主任者を選任すべき作業については、労働安全衛生法に基づいて作業主任者を選任する。

7.3 工事現場の安全・衛生管理 (No.71)

- ・工事に先立ち、安全管理に係る書類を作成し、これに基づいて工事全体及び工程毎の安全・衛生管理を行う。
- ・関連業者を含めた安全衛生協議組織を定めるとともに、定期的に会議を開催し、混在作業の調整、使用機器等の配置・移動等に関する協議を行い、安全作業を図る。
- ・工事に先立ち、緊急連絡体制、防火組織等の体制を整え、突発事故等に備える。
- ・必要に応じて、作業員の休憩所、更衣室、便所、洗面所等の設備を設け、作業員の衛生保持に努める。
- ・工事現場においては、整理・整頓を行い、特に落下物による事故及び墜落等の事故防止に努める。
- ・工事に当たって資格が必要な作業は、その有資格者に行わせる。
- ・作業員に対し、現場への新規入場の際に、現場における安全衛生上の教育を行う。
- ・粉塵による健康障害防止のため、作業員には、防塵マスクを着用、作業着等の清潔保持の励行に努めさせる。
- ・やむを得ず工事現場外の道路上(上空を含む)において、作業し、車両・機械等を置き又は作動させる場合は、通行者等が安全に通行できるよう措置し、誘導員を配置し、公衆災害の防止を図る。
- ・工事計画書・作業手順に基づいて、作業方法・作業内容・作業量等を作業員に周知させる。

7.4 火災防止 (No.72)

- ・火気を使用する場合には、その場所に不燃材料の囲いを設ける等引火・延焼防止する措置を講ずるほか、次の各号の掲げる措置を講ずる。
 - ①火気の使用は、工事の目的に直接必要な最小限度にとどめる。
 - ②火のつき易いものの近くで火気の使用はしない。
 - ③火気の使用場所のそばには消火器・簡易消火用具等の適切な消火用水を準備する。
 - ④作業員用のための暖房用等、直接工事以外の目的に使用する場合には、あらかじめ、その使用場所を指定する。

7.5 巡視 (No.73)

- ・現場代理人による木構造工事現場内及びその周辺の安全巡視を行い労働災害・公衆災害の防止に努める。
- ・工事中に、危険が無いかを点検する。
- ・飛来落下物に対する養生設備の状況を点検する。

7.6 事故発生時の措置 (No.74)

- ・工事中に事故が発生し、又は公衆に危害を及ぼした場合には、直ちに応急処置及び関係機関への連絡を行うとともに類似の事故が再発しないよう対策を講じる。

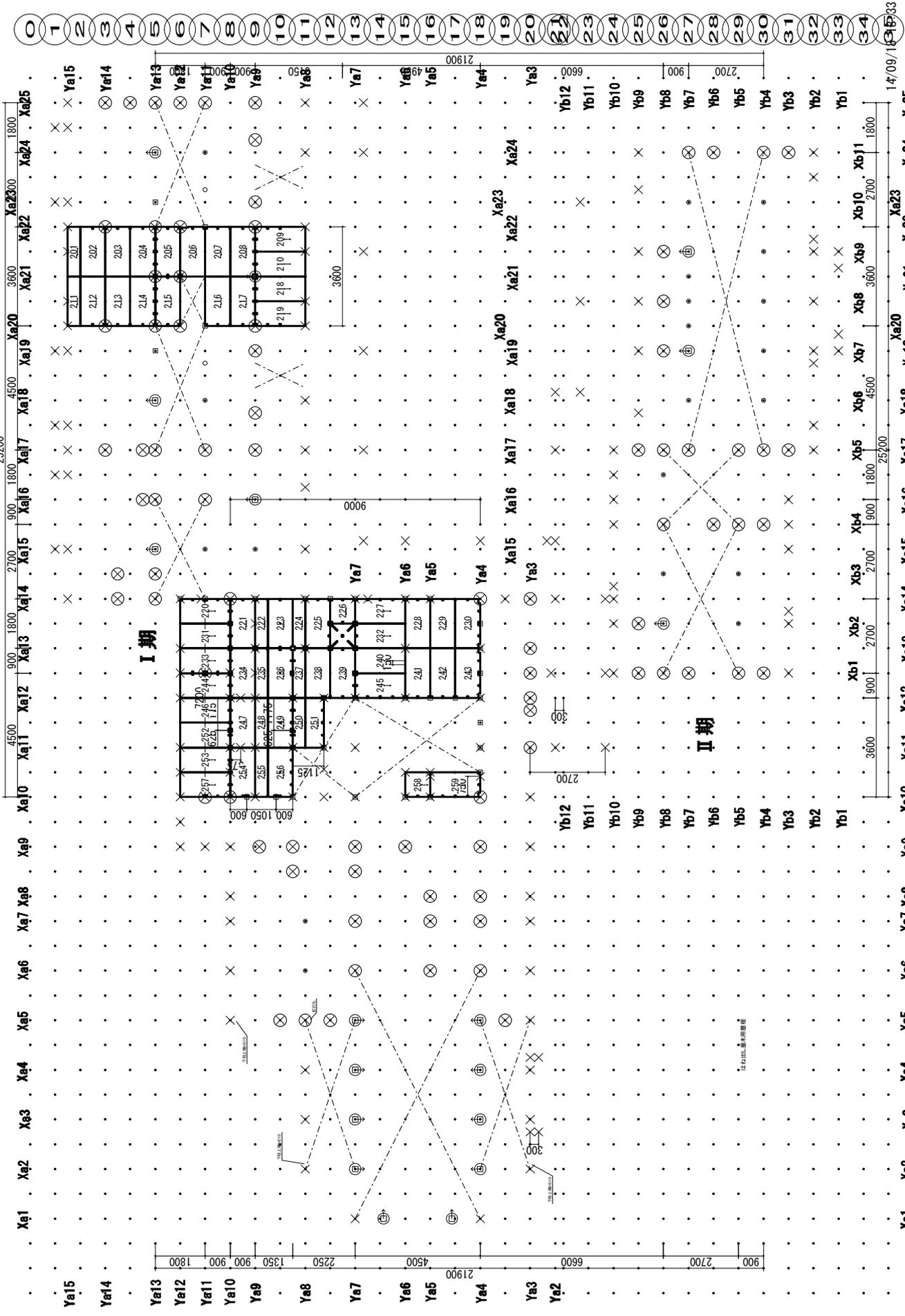
木工事(構造)施工計画書関連図書

8 プレカット図 (No.75)

- ・別紙(p.79～90)のプレカット図による。
- ・プレカット事業者の協力の元、木構造部材のプレカットに係る各種の伏図・耐力壁図・面材配置図・断面図(軸組図)等の図書を作成する。

2階床面材伏図

○んすむてんえしあやかきあてえにさしなまやくおの#うまらなれつそれやまわりちと(画)にまろし



- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34

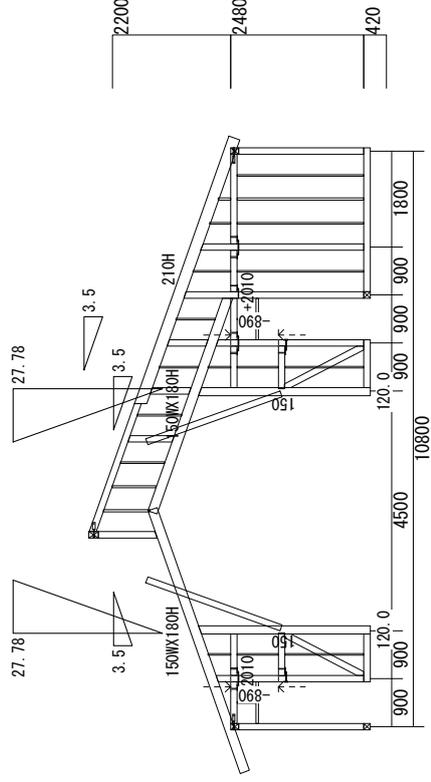
- Xa1 Xa2 Xa3 Xa4 Xa5 Xa6 Xa7 Xa8 Xa9 Xa10 Xa11 Xa12 Xa13 Xa14 Xa15 Xa16 Xa17 Xa18 Xa19 Xa20 Xa21 Xa22 Xa23 Xa24 Xa25
- Ya15 Ya14 Ya13 Ya12 Ya11 Ya10 Ya9 Ya8 Ya7 Ya6 Ya5 Ya4
- Yb12 Yb11 Yb10 Yb9 Yb8 Yb7 Yb6 Yb5 Yb4
- Xb1 Xb2 Xb3 Xb4 Xb5 Xb6 Xb7 Xb8 Xb9 Xb10 Xb11

14/09/1831533-46

Xa1	Xa2	Xa3	Xa4	Xa5	Xa6	Xa7	Xa8	Xa9	Xa10	Xa11	Xa12	Xa13	Xa14	Xa15	Xa16	Xa17	Xa18	Xa19	Xa20	Xa21	Xa22	Xa23	Xa24	Xa25				
発注者												営業所名			工事店名		入力者		承認者		スケール		ファイル名		現場名		保青團 様邸	
1/133												00-01388		図面番号		00-01388		図面名		床取伏図：2階床		14年05月20日						

軸組図

構造軸組図 (き通り)



2 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7

14/09/29 19:30:08

発注者	営業所名	工務店名	入力者	承認者	スケール	ファイル名	保育園	現場名	保育園 様邸
					1/100	図面番号	00-01388	図面名	構造軸組図 (き通り)
						図面番号			14年05月20日

第6章

施工管理図書作成にかかる
記載事項及び留意事項等

第6章 施工管理図書作成にかかる記載事項及び留意事項等

本章では、各種施工管理図書を作成するにあたり記載が必要となる事項や作成時の留意事項等について、添付図書を中心に補足解説を行っています。また、一部木構造工事の施工管理の要点についても触れています。実物件にて図書を整備する際の参考として下さい。

着工前準備

◎総合施工計画書

3 工程表 (No. 6)

- ・バーチャート工程表の作成を基本とする。
- ・工程は、工事科目ごとに記載し、検査関係の予定も記載する。
- ・木材調達や各種施工管理図書の作成等、着工前の準備期間も含めて作成する。
- ・着工日、上棟日、軸組完了日、内装工事着手日、建物完成日、竣工引渡日等、工事の節目となる期日び実績を記載できるようにする。
- ・発注者指定の様式がない場合は、自社の様式を使用する。

8 仮設計画

8.1 総合仮設計画図 (No. 24)

- ・総合仮設計画図には、以下の事項を記載する。
- ・指定仮設がある場合は、図面に指定仮設と明記すること。

記載項目	記載内容	留意事項
①仮囲い・門扉(ゲート)	位置・高さ・仕様等	<ul style="list-style-type: none">・敷地と道路の形状や交通量を確認した上で、出入りしやすく危険の少ない位置に設置する。・ゲートや出入口は施錠できる構造とする。・工事車両が出入りするゲートは車両用と人用を区別して設置することが望ましい。・通行人や交通量が多い場合には回転表示灯を設置する。・ミキサー車、ポンプ車、ラフタークレーン等の大型車両が出入りする際は交通誘導警備員を配置する。・ゲート部の路面には道路管理者との協議の状況に応じて仮設鉄板を設置する。・仮囲いへの開口部の設置、騒音・振動計の設置、完成予想図等の設置等、発注者から条件が提示される場合もあり。
②場内通路・各種スペース	位置・規模・仕様等	<ul style="list-style-type: none">・位置・仕様・設置期間によっては地盤改良が有利な状況もあり。
③荷揚計画(建て方用荷揚げを計画含む)	クレーン据え付け位置・構台設置位置	<ul style="list-style-type: none">・構造・仕様は別紙可・移動式クレーンの作業半径・揚程に関する性能を確認する。

④建物外部足場	輪郭がわかるもの	・詳細は足場計画図にて記載可
⑤屋根材の現場成型場所	構造及び位置(足場)	・必要に応じて記載すること
⑥仮設建物	現場事務所・作業員休憩所・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・外形のみでも可。但し別紙詳細を作成すること。 ○現場事務所 <ul style="list-style-type: none"> ・工事の邪魔にならない場所かつ、現場全体を見通せる位置に設置することが望ましい。 ・作業員詰所は異業種間のコミュニケーションを重視して大部屋方式とすることが望ましい。 ・一般的には解体が容易なプレハブで建てることが多いが、敷地に余裕がない場合は近隣のビルや建物の一室を借りることもあり。 ○トイレ <ul style="list-style-type: none"> ・男子用に加えて、女子用を設け、国土交通省標準仕様の快適トイレとすることが望ましい。
⑦資材等仮集積場	位置・区画・仮囲い等	<ul style="list-style-type: none"> ・資材ストックヤードを設け、建て方時には、資材搬入及び地組を行うエリアとして利用することを検討する。 ・工事規模・内容に応じた規模の倉庫及び産廃コンテナを配置する。
⑧地業・掘削位置	地業・掘削位置 基礎掘削の動線	・複雑な場合は、別に地業・掘削位置図を作成し、仮設計画との干渉を確認すること
⑨各種看板類	位置図	・法令で規定されたもの等（建設業の許可票・施工体系図・労災保険関係成立票・確認済の表示板・道路使用許可証（必要な場合）等）
⑩仮設給水	給水位置	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設給水は現場事務所、作業員詰所付近に設置し、トイレの手洗いも兼ねる。 ・杭工事など給水が大量に必要な時は、杭施工時にディープウェルを設置
⑪仮設電力	分電盤位置	<ul style="list-style-type: none"> ・分電盤は現場事務所や現場に近接した場所に設置する。雨が掛からないよう配慮し、取扱責任者を明示する。 ・引込容量は電灯（100V）動力（3φ200V）を合わせて50KVAの場合、それぞれ50KVAの場合があり、地域によって異なるため注意が必要
⑫支障物の撤去及び移設等	地中障害物、解体建物等	・必要に応じて記載すること。
⑬その他安全等に 必要な設備	隣地に対する養生等	・必要に応じて記載すること。

8.2 足場計画図 (No. 25)

- ・足場の高さが 10m 以上かつ設置期間 60 日以上の場合は、足場の設置届を労働基準監督署に提出する。
- ・足場の基本割付寸法、建物からの標準的な離れ寸法、昇降設備位置、頭つなぎの位置等を明示する。
- ・荷揚げ構台が必要な場合は記載する。
- ・建て方前と建て方後で設置のタイミングが異なる足場がある場合は、区分を明示することが望ましい。
- ・中大規模木造建築では、庇の出が大きいケースがあり、庇先端の作業と屋根からの転落防止の検討が必要となる。足場を庇下まで二重に設置するか、幅広の足場を設置し、庇の外側に足場を庇上まで立ち上げることが考えられる。軒先の手摺の高さは、庇より 1.0m 以上立ち上げる。
- ・内部の天井が高い場合は、内部足場図を別途作成する必要がある。
- ・その他、安全性確保のため、以下についても留意し、記載する。
 - 作業床の幅は 40cm 以上（狭い場合は 24cm）
 - 足場の下に敷き板等の設置
 - 根がらみの設置
 - 最下段の作業床は地盤面から 2.0m 以下（2 本組は 2.3m 以下）
 - 壁つなぎや控えの設置
 - 隅角部への火打ち材の設置
 - 筋かいは 45 度とし、全層全スパンに設置
 - 転落防止措置（手摺、足場ネット、巾木、建物との離れ 30cm 以下、屋根から 1.0m 以上など）の厳守
 - 手摺高は 75cm 以上 90cm 以下とし、90cm 超の場合は中棧を設置
 - 屋根面手摺は 75cm 以上かつ中棧の設置

◎総合施工計画書関連図書

9 プレカット図 (No. 26)

- ・プレカット図は、プレカット工場での加工や現場の組立時に参照される加工図であるが、近年、中大規模木造建築の普及促進が進む中、在来軸組工法の中大規模木造建築ではプレカット図が、施工図の役割を果たす必要性が発生している。
- ・施工図の役割を果たすプレカット図として、標準図系（凡例図、仕様書）、平面図系（伏図、耐力壁・柱金物図、面材配置図、窓材伏図）、断面図系（断面図）の各図書を作成する。

10 木構造工事見積書 (No. 27)

- ・見積項目は、構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等とし、極力詳細に計上した見積書を作成する。
- ・構造材、羽柄材を1本拾いで計上し、部材名、品名（樹種等）、等級、材寸、数量、材積を記載する。
- ・金物は、種類、仕様・規格ごとに計上する。

11 施工図 (No. 28)

- ・本手引きでは、木構造工事と関連性の高い図書として、基礎伏図、アンカーボルト伏図を掲載している。
- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響し、慎重な施工管理が必要となるため、アンカーボルトの位置を寸法で示したアンカーボルト伏図を作成する。

施工計画

◎木工事（構造）施工計画書

5 材料調達

数量調書（No. 36）

- ・本手引きでは構造材、羽柄材、金物のそれぞれについて、仕様及び数量の一覧を掲載している。

材料の合法性確認書類（No. 37）

- ・「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（通称「クリーンウッド法」）」では、我が国又は原産国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材・その製品の流通及び利用を促進することを目的として、木材関連事業者や国が取り組むべき措置等について定めている。
- ・本法律において地域工務店等は「第二種木材関連事業」と位置付けられ、木材等について合法性の確認措置を講ずるよう努めることが求められている。
- ・地域工務店等は、発注者の要望等があった場合は、木材等を譲り受ける際に提供された次の書類、その他これに類する書類により木材等の合法性の確認を行うことが現実的と考えられる。
 - イ．第一種木材関連事業者（製材工場、原木市場等）から木材等を譲り受ける場合には、その第一種木材関連事業者が合法性を確認できた旨を記載した、又は記録した書類
 - ロ．第二種木材関連事業者（プレカット工場、販売・流通事業者等）から木材等を譲り受ける場合には、その第二種木材関連事業者が合法性の確認を行った旨及び合法性の確認ができた旨を記載した、又は記録した書類
- ・本手引きでは第一種木材関連事業者から第二種木材関連事業者に提出された出荷証明書を想定した例を掲載している。
- ・改正クリーンウッド法が令和7年4月に施行されるため、令和7年度以降は改正法に基づいた対応が必要となる。
- ・詳しくは合法伐採木材等に関する情報提供ホームページ「クリーンウッド・ナビ」（<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/goho/>）を参照されたい。

6 施工要領

6.1 施工フロー（No. 38）

- ・着工前準備、施工計画、材料調達、施工の段階ごとに実施する作業内容とその流れを整理し、関係する木造建築関連事業者と情報の共有を行う。
- ・木造関連事業者と連携して作業を行う場合は、連携する事業者との役割分担を明確に整理する。

6.3 木材の品質管理

6.3.1 使用する木質材料（No. 40）

- ・木構造工事で使用する主要な木質材料（構造材・構造用合板等）の仕様等を整理する。

(1) JAS 構造用製材

- ・部位ごとに樹種、目視等級区分・機械等級区分の別、含水率、保存処理方法等を記載する。

材面の美観について

- ・材面の美観の区分には、JAS 規格と慣用的な等級の 2 種類の表示方法があり、それぞれで基準が異なる。また、慣用的等級区分は地域によっても異なる。そのため、サンプルを用いて監督職員や監理者等と確認しておくことが望ましい。

(2) 地域認証材

- ・多くの地域で地域材認証制度が創設されている。地域材認証制度は、大きく分けて、産地証明を主目的とした制度と、含水率やヤング係数など JAS に準じた規格を設けている制度がある。後者の場合は、現場における木材の品質管理を合理化できる。
- ・含水率やヤング係数など JAS に準じた規格が設けられている地域認証材を使用する場合は、部位ごとに、樹種、含水率などの規格を記載する。
- ・地域材は、基本的に施工者が決まり、その施工者からプレカット事業者や木材流通事業者への発注があってから調達や加工が始まる。そのため、量が多く特殊な寸法の場合は、調達時間が必要である。詳しくは、「地域材活用の中大規模木造建築物実現の手引き」（平成 28 年 3 月（一社）木を活かす建築推進協議会）を参照されたい。

(<https://www.kiwoikasu.or.jp/data/94f3ec1ddb901419f48600d5f56112e5.pdf>)。

(3) 無等級材

- ・部位ごとに樹種、含水率を記載する。
- ・構造設計上必要となるヤング係数を記載する。

(4) 構造用集成材

- ・部位ごとに樹種、品名（同一等級構成・異等級構成）、強度等級、材面の品質、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・なお、構造用集成材は使用箇所に応じた接着性能の選定が重要である。屋外など耐候性・耐熱性が必要とされる箇所には使用環境 A の接着性能を用いることが必要である。

(5) 構造用単板積層材（LVL）

- ・部位ごとに樹種、品名（A 種・B 種）、曲げ性能、水平せん断性能、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(6) 直交集成板（CLT）

- ・部位ごとに樹種、規格、厚さ、接着剤の種類、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(7) 構造用面材

①構造用合板

- ・ 部位ごとに樹種、等級（板面の品質）、接着の程度、厚さ、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・ なお、構造用合板は使用箇所に合わせて接着性能の選定が重要である。外壁の軸組や屋根下地など耐久性が必要とされる箇所には特類を用いることが望ましい。

②合板以外の面材

- ・ 部位ごとに種別、厚さ、サイズ、規格、認定番号、メーカーを記載する。

6.3.2 木質材料の品質管理方法（No. 41）

(1) JAS 構造用製材・構造用集成材等

- ・ 検査時期は、工場などで製品検査を行うか現場受入時のいずれかとする。
- ・ 現場へ搬入した材料は、監督職員の検査が必要となる（公共建築木造工事標準仕様書 1.4.4）。また、納材者が行った自主検査の内容を再確認する。検査の対象は下記（※）を参考として設定する。

※公共建築木造工事標準仕様書では、構造耐力上主要な部分である柱及び横架材全数について、ヤング率が基準値を上回っていることを確認することを原則としている。しかし、本手引きで対象としている低層小規模建築物であっても、柱及び横架材の数量はきわめて多く、全数検査は膨大な時間と労力を要する。このため、予算や工期等も考慮し、発注者、木材関係者、設計者等で協議を行い、発注者の了解を得て全数検査とする部位とその他の部位を明確に区分し、一部を抜取検査とする場合は、抜取検査とする部位及び抜取率をあらかじめ設定しておく事が、現実的な対応策と考えられる。

(2) 地域認証材

- ・ JAS に準じた規格が設けられている場合は、(1)と同様の検査を行う。JAS に準じた規格が設けられていない場合は、(3)と同様の検査を行う。
- ・ 検査の対象は(1)（※）を参考に設定する。
- ・ 地域認証材や森林認証材等、規格の異なる複数の木材を取り扱う場合には、これらが煩雑にならないよう視覚的に識別できるようにする等、仕分け管理に十分に注意する。

(3) 無等級材

- ・ 木材の品質（材面の欠点・含水率・ヤング係数）の確認方法を、特記仕様書等により確認する。
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和 4 年版 5.2.2 では、無等級材は加工前に材面の欠点・含水率・縦振動ヤング係数を確認することとなっている。
- ・ 検査の対象は(1)（※）を参考に設定する。

●材面の欠点の確認

- ・旧製材の JAS（昭和 42 年農林省告示第 1842 号）第 10 条におけるひき角類の格付けの基準を満たすことを目視により確認する。

区分	基準
節	径比が40%以下であり、かつ、集中径比が60%以下
入り皮又はやにつぼ	軽微
丸み	20%以下であり、かつ、1角においては10%以下
曲り	0.2%以下であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、0.5%以下
ねじれ	きわめて軽微であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、顕著でないこと
木口割れ又は目まわり	10%以下
繊維走向の傾斜(幅が90mm未満を除く)	80mm以下
平均年輪幅	6mm以下
あて	軽微
腐れ又は虫あな	軽微
端落ち	端落ち(材の1端の欠除した部分)の厚さ方向の長さの最大値と最小値の和の1/2の材の1辺長さに対する割合が10%以下であり、かつ、材の長さ方向の長さが0.2m以下
その他の欠点	軽微

●含水率の確認

- ・高周波水分計等を用い、1本あたり6か所(1本の製材の異なる2面について両小口から300mm以上離れた2か所及び中央1か所)の測定を行い、その平均値とする。

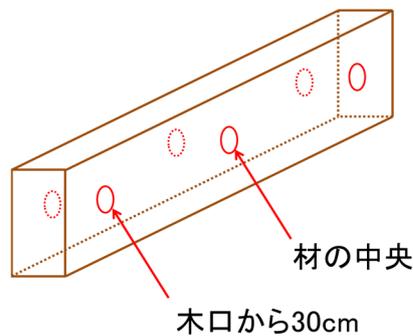


図2 含水率の計測方法



図3 含水率の計測例

●縦振動法によるヤング係数の確認

- ・縦振動法とは、試験体(木材)の一方の木口面をハンマーで軽くたたいて試験体を縦振動させ、他方の木口面近くに設置したマイクロホンで材中を伝わる縦波を音としてとらえ、サウンドアナライザーによって分析し、材料の基本振動数を測定することによってヤング係数を算出する方法である。1試験体につき1回の計測を行う。



図4 縦振動法によるヤング係数の計測例

(4) 構造用合板

- ・現場受入時に指定された品質の構造用合板である事を、JAS ラベル又は JAS 印字で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.4 木材加工の品質管理

6.4.1 木材加工の品質・仕様 (No. 42)

(1) 製材・構造用集成材の寸法許容差

- ・製材や構造用集成材の長さや断面寸法に関する許容差を、特記仕様書等で確認する。
- ・寸法には製材工場の出荷時の寸法を意味する「挽き立て寸法」と、施工者の加工後の実寸法である「仕上がり寸法」があることに注意する。図面での寸法指定は仕上がり寸法である。
※本手引きでは、参考例として（一社）中大規模木造プレカット技術協会における製材の寸法許容差を示している。

(2) 孔あけ等の加工精度の基準

- ・木材にあけるボルト孔等の寸法は、特記なき限り、公共建築木造工事標準仕様書 5.4.3（孔あけ加工）の基準を順守する（ボルト（引張）を除く）。

(3) 表面仕上げの仕様

- ・見え掛かりとなる面の表面仕上げの程度を特記仕様書等により確認する。
- ・本手引きでは、参考例として公共建築木造工事標準仕様書 5.4.4（表面の仕上げ）における、製材の機械加工による仕上げの程度を示している。

(4) 木材保護塗装

- ・建て方時の養生（汚れ止め）として、見え掛かりとなる構造材に、あらかじめ木材保護塗料を塗ることを指定している場合がある。塗装箇所を特記仕様書等で確認し、使用する材料やメーカーを施工計画書に記載する。

(5) 不燃処理木材等

- ・不燃材料、準不燃材料又は難燃材料を使用する場合は、特記による。

6.4.2 木材加工の品質管理方法 (No. 43)

- ・当該検査は木材の加工後に実施し、実施した検査記録を工事写真等にまとめる。

6.5 接合金物等の品質管理

6.5.1 使用する主な接合具・接合金物 (No. 44)

- ・使用する主な接合部・接合金物を一覧で整理する。
- ・(公財) 日本住宅・木材技術センターが規定するZマーク等の規格があるものは、その規格を記載する。
- ・釘やボルト・ナットなどは JIS 規格があるものは、JIS 規格品を使用する。
- ・接合金物は、直接雨にさらされる屋外環境で使用する場合は、特記がなければステンレス製を用いる。
- ・カタログのコピーを施工計画書の巻末に添付して提出する。

6.5.2 接合金物等の品質管理方法 (No. 45)

- ・接合金物等は現場受入時に指定された製品である事を出荷証明書で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.6 アンカーボルトの施工の品質管理

6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準 (No. 46)

- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響を与えるため、慎重な施工管理が必要である。
- ・アンカーボルトの施工精度の基準やアンカーボルトの保持及び埋込み工法を特記仕様書等で確認する。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上決定する。

6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法 (No. 47)

- ・アンカーボルトの検査はコンクリート打設前に行い、基準を満たしていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.7 建て方の施工計画

6.7.1 建て方フロー (No. 48)

- ・本手引きでは、2階建て軸組工法の建築物の建て方のフロー（例）を示している。
- ・なお、建て方の作業主任者や玉掛け作業員は技能講習修了者であることが必要である。

6.7.2 建て方計画図 (No. 49)

- ・建て方計画図は、総合仮設計画図に建て方時に必要となる情報を追記することを基本とする。
- ・総合仮設計画図に追記する主な内容は以下の通り。

記載内容	留意点
①仮設鉄板敷き部分（クレーン設置場所及び地組スペース部）	
②重機据え付け位置	移動位置を明示
③架空電線の位置 ※作成例では省略	干渉時には防護管を設置
④最遠部の作業半径時の吊り荷荷重（部材の重量）	
⑤最大吊り荷荷重時の作業半径（特に地組部材）	
⑥荷降ろし位置・地組スペース	
⑦重機廻りの立ち入り禁止区域	
⑧建て方手順	

6.8 建て方の施工精度

6.8.1 建て方の精度基準 (No. 57)

- ・建て方の精度に関する基準を特記仕様書等で確認する。
- ・精度を確認する項目には、建物の倒れ、建物の湾曲、階高、柱据付面の高さ、柱の倒れ、梁の水平度等がある。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上、確認項目、確認箇所数、許容値等を決定する。

6.8.2 建て方の品質管理方法 (No. 58)

- ・建て方の検査は、建て方後に行い、計測数値が許容値の範囲内であることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.9 接合部の品質管理

6.9.1 接合部の施工管理の内容 (No. 59)

- ・接合部の接合方法には、釘、木質構造用ねじ、ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー等があり、採用する接合方法を選択する。
- ・詳細は構造木工事監理マニュアル（（一社）中大規模木造プレカット技術協会）を参考にされたい。

6.9.2 接合部の品質管理方法 (No. 60)

- ・接合部の検査は施工時又は施工完了時に行い、接合部の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.10 耐力壁の品質管理

6.10.1 耐力壁の仕様 (No. 61)

- ・耐力壁には大きく面材耐力壁と筋かい耐力壁があり、それぞれの仕様を特記仕様書等で確認する。

6.10.2 耐力壁の施工管理の内容 (No. 62)

- ・面材耐力壁の管理は、釘の種類、長さ、間隔だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.10.3 耐力壁の品質管理方法 (No. 63)

- ・耐力壁の検査は施工時又は施工完了時に行い、耐力壁の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.11 水平構面の品質管理

6.11.1 水平構面の仕様 (No. 64)

- ・水平構面は、2階以上の床構面と屋根構面に分けられる。それぞれの仕様を特記仕様書等で確認し、施工計画書にまとめる。

6.11.2 水平構面の施工管理の内容 (No. 65)

- ・構造用合板の施工管理は、水平構面の仕様だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.11.3 水平構面の品質管理方法 (No. 66)

- ・水平構面の検査は施工時又は施工完了時に行い、水平構面の施工管理内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.12 防腐・防蟻の品質管理

6.12.1 防腐・防蟻の仕様 (No. 67)

- ・木質材料の防腐・防蟻処理方法は、ヒノキ等の耐久性の高い樹種を用いる方法、保存処理材を用いる方法、および薬剤の現場塗布等の方法がある。
- ・防腐・防蟻処理の有無およびその仕様を特記仕様書等により確認し、施工計画書にまとめる。

6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法 (No. 68)

- ・防腐防蟻の検査は、高耐久木材・保存処理材を使用する場合と薬剤の現場塗布で異なる。

第7章

施工計画書（追補版）

第7章 施工計画書追補版 ～準耐火建築物及び鉄骨造部分を含む工事の場合～

本章では、準耐火建築物や鉄骨工事を含む非住宅・木造低層小規模建築物の施工管理で有用な「防耐火処理等工事施工計画書」及び「鉄骨工事施工計画書」の作成例を紹介します。

7.1 施工管理図書 追補版①「防耐火処理等工事施工計画書」

(1) 適用対象とする建築物

- ①用途 : 福祉施設等
- ②防火地域 : 法 22 条区域 または その他の地域
- ③階数・規模 : 2 階建て・延べ面積 500～1,000 m²程度
- ④防耐火性能の区分 : イ準耐（法 2 条 9 号の 3 イ）
- ⑤対象とする準耐火構造 : 部位に応じて 30 分、45 分、60 分
- ⑥対象とする仕様 : 主として防火被覆による
一部の柱・はりを燃えしろ設計

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

無記入の様式は、(公財) 日本住宅・木材技術センターの WEB サイトからダウンロードすることができます。

<https://www.howtec.or.jp/files/libs/6095/202504111556261617.xlsx>



●●●●新築工事

防耐火処理等工事施工計画書

令和●●年 ●●月

承 諾	

請負者 ●●建設 株式会社

※防火地域:法22条区域、用途:保育所、階数:2階建て、延べ面積:588.65㎡
(1階:540.05㎡、2階:48.60㎡)、イ準耐(法2条9号の3イ)、主として防火被覆
による一部の柱・はりを燃えしる設計とした建物を対象とした場合の作成例
(青字)を示します。
※無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトから
ダウンロードすることができます。

目 次

1 総則

- 1.1 適用範囲
- 1.2 適用図書
- 1.3 疑義、変更
- 1.4 その他

2 工事概要（総合施工計画書による）

3 工程表

4 施工管理体制（総合施工計画書による）

5 材料調達

- 5.1 数量調書

6 施工要領

- 6.1 施工フロー
- 6.2 防火被覆材の品質管理
- 6.3 防火被覆材の施工管理
- 6.4 燃えしろ層の品質管理
- 6.5 燃えしろ層の施工管理

7 安全・衛生管理（木工事(構造)施工計画書による）

- 7.1 一般共通事項
- 7.2 現場の管理体制
- 7.3 工事現場の安全・衛生管理
- 7.4 火災防止
- 7.5 巡視
- 7.6 事故発生時の措置

8 参考文献

1 総則

1.1 適用範囲

本施工計画書は●●●●新築工事(主要構造部準耐火構造(法2条9号の3イ))における木工事(構造)のうち、防耐火処理等の現場施工管理方針として適用する。

1.2 適用図書

本工事は下記の仕様書及び設計図に基づいて施工する。

その施工に当たっての優先順位は、下記による。

- (1) 質疑回答書、現場説明書、追加変更指示書
- (2) 本工事の建築設計図書及び特記仕様書
- (3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

公共建築木造工事標準仕様書(令和4年版) 3章 防耐火処理等

1.3 疑義、変更

本施工計画書に記載なき事項や、記載事項の質疑変更に関しては監理者・工事担当者との協議の上で承諾を得て施工する。

1.4 その他

本施工計画書に基づく工事内容及び作業の進め方等について、協力会社及び作業員に周知徹底させて施工品質の確保に用いる。

2 工事概要

・総合施工計画書の5 工事概要(p.26)による

3 工程表

・総合施工計画書の3 工程表(p.27)による。

4 施工管理体制

・総合施工計画書の4.1 管理体制図(p.29)による。

5 材料調達

5.1 数量調書

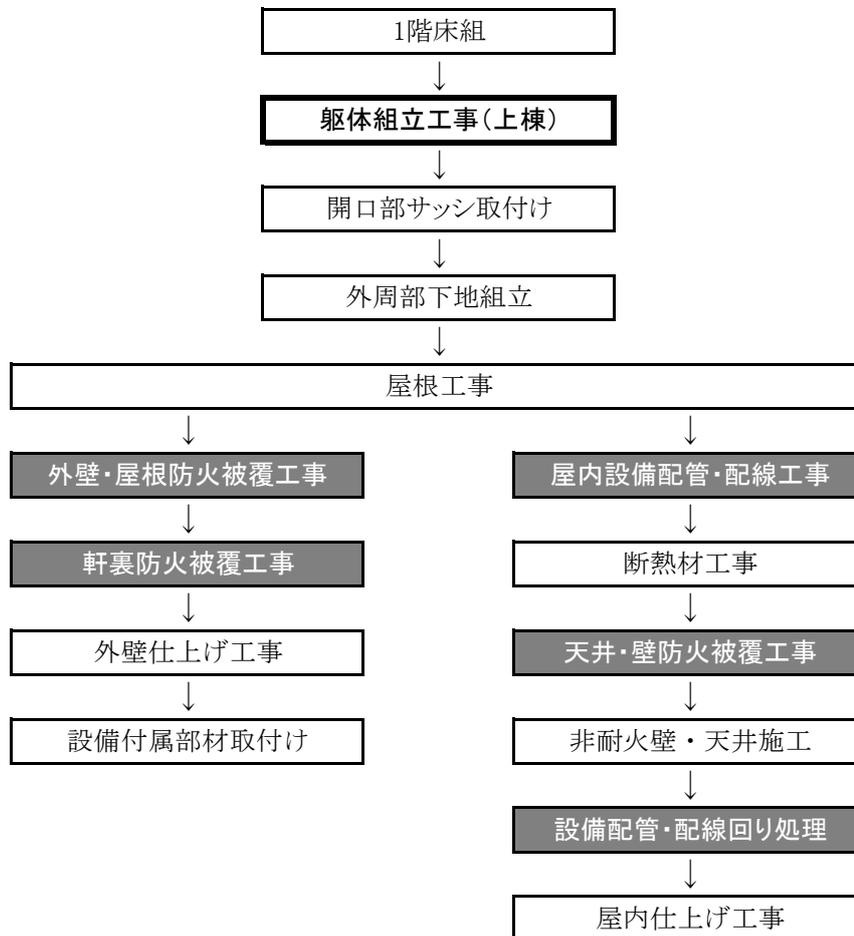
※部位ごとに用いられる主な材料を選択肢として記載する。

※構造部材の防火被覆の他、防火区画(壁・床)・小屋裏隔壁・強化天井部分に用いる材料を含む。

部位	材料	厚さ(mm)	数量 (㎡)	備考 (認定番号等)
壁	■せっこうボード	■12.5	100	ランチルーム12.5+12.5 (EP仕上) (不燃NM-8619)
		■15	705	一般部 (不燃NM-8619)
柱	■燃えしろ設計による	—	—	木工事 (構造) 施工計画書参照
床 (1階除く)	■構造用合板	■12	58	2階床12+18
		■18	58	
はり	■燃えしろ設計による	—	—	木工事 (構造) 施工計画書参照
軒裏	■窯業系サイディング	■14	215	窯業系サイディング張/木造・鉄骨造軒裏 (QF045RS-9122)
屋根 (屋内側又は直下の天井) ただし、小屋裏隔壁・強化天井を含む	■強化せっこうボード	■12.5	68	ランチルーム普通12.5+強化12.5 (EP仕上) (不燃NM-8615)
		■15	509	一般部 (不燃NM-8615)
		□21		
階段	■構造用合板	■24	6	床

6 施工要領

6.1 施工フロー



□ : 燃えしろ設計関連の工事を含む工程

■ : 防火処理等関連の工事を含む工程

6.2 防火被覆材の品質管理

6.2.1 使用する防火被覆材

※構造部材の防火被覆の他、防火区画(壁・床)・小屋裏隔壁・強化天井部分を含む。

■ 壁

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法	
間仕切壁の両側(耐力壁・非耐力壁) ※ただし、防火区画の壁、小屋裏隔壁を含む	■ 下地が木材	□ 1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ8mm以上のスラグせっこう系セメント板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ16mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上の強化せっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ35mm以上の軽量気泡コンクリートパネル
		■ 45分間	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上のせっこうボード <input checked="" type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ7mm以上のせっこうラスボードの上に厚さ8mm以上のせっこうプラスターを塗る
	□ 下地が木材又は鉄材(木材のみを除く)	□ 1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ8mm以上のスラグせっこう系セメント板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ16mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上の強化せっこうボードを張る
		□ 45分間	<input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上のせっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ7mm以上のせっこうラスボードの上に厚さ8mm以上のせっこうプラスターを塗る
	□ 下地が不燃材料		<input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の鉄網モルタル <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ10mm以上のモルタル又はしっくいを塗る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板の上にモルタル又はしっくいを塗り、その上に金属板を張る

■壁 つづき

建築物の部分		通常火災に基づく加熱時間	構造方法	
間仕切壁の両側(耐力壁・非耐力壁) つづき	□下地が不燃材料以外	□45分間	<input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網モルタル又は木ずりしっくいを塗る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしっくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 土蔵造 <input type="checkbox"/> 土塗真壁造で裏返し塗り <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に亜鉛鉄板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に亜鉛鉄板を張る	
	□木材厚板	□45分・1時間	<input type="checkbox"/> [耐力壁]燃えしろ設計 <input type="checkbox"/> [非耐力壁]木材の最低厚さの規定	
外壁で下地が木材 ※ただし、防火区画の壁及びスパンドレルを含む	□耐力壁・非耐力壁の延焼部分	□1時間	屋外側	<input type="checkbox"/> 厚さ18mm以上の硬質木片セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網モルタル <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網軽量モルタル(有機質量8%以下) <input type="checkbox"/> 厚さ35mm以上の軽量気泡コンクリートパネル <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の硬質木片セメント板の上に厚さ10mm以上の鉄網軽量モルタル(有機質量8%以下)
			屋内側	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ8mm以上のスラグせっこう系セメント板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ16mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上の強化せっこうボードを張る
	□木材厚板	■45分間	屋外側	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしっくいを張る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る ■ グラスウール充てん/木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・繊維混入けい酸カルシウム板表張/繊維混入けい酸カルシウム板裏張/木製軸組造外壁(QF045BE-0176) ■ 両面窯業系サイディング張/木造・鉄骨造外壁(QF045BE-9226)
			屋内側	■ 厚さ15mm以上のせっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ7mm以上のせっこうラスボードの上に厚さ8mm以上のせっこうプasterを塗る <input type="checkbox"/> 上記のほか、30分間用として厚さ8mm以上のスラグせっこう系セメント板又は厚さ12mm厚のせっこうボードもある。
■非耐力壁の延焼外部分	■30分間	■ 上記耐力壁・非耐力壁の延焼部分45分間加熱の屋外側及び屋内側の構造方法に同じ		

※一時間準耐火構造は耐火構造の仕様としてもよい(屋内側、屋外側の片面だけでもよい)

※45分準耐火構造は耐火構造、一時間準耐火構造の仕様としてもよい(屋内側、屋外側の片面だけでもよい)

■柱

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法
	□1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせつこうボードの上に厚さ12mm以上のせつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ8mm以上のスラグせつこう系セメント板の上に厚さ12mm以上のせつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ16mm以上の強化せつこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ9mm以上のせつこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせつこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上の強化せつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 建令46条2項1号イ、ロの基準等に適合する構造(⇒令元国交告示第195号、燃えしろ設計)
	■45分間	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上のせつこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせつこうボードの上に厚さ9mm以上のせつこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせつこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上のせつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ7mm以上のせつこうラスボードの上に厚さ8mm以上のせつこうプラスターを塗る <input checked="" type="checkbox"/> 建令46条2項1号イ、ロの基準等に適合する構造(⇒平12建設省告示第1358号、燃えしろ設計)

■床

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法	
下地が木材・鉄材 ※ただし、防火区画の床を含む	□1時間	表側	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の構造用合板、構造用パネル、パーティクルボード、デッキプレート等(以下「合板等」という)の上にせつこうボード、硬質木片セメント板又は軽量気泡コンクリートを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の合板等の上に厚さ12mm以上のモルタル、コンクリート又はせつこうを張る <input type="checkbox"/> 厚さ40mm以上の木材 <input type="checkbox"/> 畳(ポリスチレンフォームの畳床を除く)
		裏側または直下の天井	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせつこうボードの上に厚さ12mm以上のせつこうボードを張り、その上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ12mm以上の強化せつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ9mm以上のロックウール吸音板を張る
	■45分間	表側	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の合板等の上に厚さ9mm以上のせつこうボード若しくは軽量気泡コンクリート又は厚さ8mm以上の硬質木片セメント板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の合板等の上に厚さ9mm以上のモルタル、コンクリート又はせつこうを塗る <input checked="" type="checkbox"/> 厚さ30mm以上の木材 <input type="checkbox"/> 畳(ポリスチレンフォームの畳床を除く)
		裏側または直下の天井	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る
	□45分・1時間		<input type="checkbox"/> 燃えしろ設計

■ はり

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法
	□ 1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせつこうボードの上に厚さ12mm以上のせつこうボードを張り、その上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ12mm以上の強化せつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ9mm以上のロックウール吸音板を張る <input type="checkbox"/> 建令46条2項1号イ、ロの基準等に適合する構造(⇒令元国交告示第195号、燃えしろ設計)
	■ 45分間	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せつこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せつこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input checked="" type="checkbox"/> 建令46条2項1号イ、ロの基準等に適合する構造(⇒平12建設省告示第1358号、燃えしろ設計)

■ 軒裏

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法	
外壁で小屋裏等が遮られているものを除く	■ 延焼部分	□ 1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せつこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 繊維混入ケイ酸カルシウム板を2枚以上張る(合計厚さ16mm) <input type="checkbox"/> 厚さ18mm以上の硬質木片セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網モルタル <input type="checkbox"/> 野地板と外壁とのすき間及び取合いの部分等、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止が出来る構造(⇒令元国交告示第195号)
		■ 45分間	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の硬質木片セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせつこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせつこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしつくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input checked="" type="checkbox"/> 窯業系サイディング張/木造・鉄骨造軒裏(QF045RS-9122)
	■ 延焼外部分	■ 30分間	<input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 野地板と外壁とのすき間及び取合いの部分等、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止が出来る構造(⇒平12建告第1358号) <input checked="" type="checkbox"/> 窯業系サイディング張/木造・鉄骨造軒裏(QF045RS-9122)

■屋根

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法
<input checked="" type="checkbox"/> 不燃材料で葺いた部分(軒裏を除く)	30分間	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の硬質木片セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしつくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網モルタル <input type="checkbox"/> 繊維混入ケイ酸カルシウム板を2枚以上張る(合計厚さ16mm)
<input type="checkbox"/> 上記以外の部分(軒裏を除く)		<input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボードの裏側に厚さ50mm以上のロックウールまたはグラスウール <input type="checkbox"/> せっこうボードを2枚以上張る(総厚さが21mm以上) <input type="checkbox"/> 厚さが12mm以上のせっこうボードの上に厚さが9mm以上のロックウール吸音板を張る
<input type="checkbox"/> 木材厚板		<input type="checkbox"/> 野地板に厚さ9mm以上の構造用合板等を使用し、天井に以下の被覆を設けたもの 厚さ12mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 燃えしろ設計
屋内側又は直下の天井		

□強化天井

建築物の部分	通常火災に基づく加熱時間	構造方法
下地が木材・鉄材	1時間	<input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ21mm以上の強化せっこうボード

■ 階段

建築物の部分		通常火災に基づく加熱時間	構造方法	
<input type="checkbox"/> 厚さ3.5cm以上の木材	<input type="checkbox"/> 段板	30分間	<input type="checkbox"/> 段板及びけたが厚さ60mm以上の木材	
			裏面	<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の硬質木片セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしつくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る
	外側		<input type="checkbox"/> 厚さ8mm以上のスラグせっこう系セメント板 <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボード	
	屋外側		<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしつくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る	
■ その他	■ 段板	裏面	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の強化せっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の強化せっこうボードの上に厚さ50mm以上のロックウール又はグラスウールを張る	
	■ けた	外側	<input checked="" type="checkbox"/> 厚さ15mm以上のせっこうボード <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張る <input type="checkbox"/> 厚さ9mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さ12mm以上のせっこうボードを張る <input type="checkbox"/> 厚さ7mm以上のせっこうラスボードの上に厚さ8mm以上のせっこうプラスターを塗る	
屋外側		<input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板を張る <input type="checkbox"/> 木毛セメント板又はせっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタル又はしつくいを塗る <input type="checkbox"/> モルタルの上にタイルを張る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> セメント板又は瓦の上にモルタルを塗る(合計厚さ25mm) <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板を張る <input checked="" type="checkbox"/> グラスウール充てん/木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・繊維混入けい酸カルシウム板表張/繊維混入けい酸カルシウム板裏張/木製軸組造外壁(QF045BE-0176) <input checked="" type="checkbox"/> 両面窯業系サイディング張/木造・鉄骨造外壁(QF045BE-9226)		

注) 1. せっこうボードは強化せっこうボードを、コンクリートは軽量コンクリート及びシンダーコンクリートをそれぞれ含む。

2. ロックウールはかさ比重0.024以上、グラスウールはかさ比重0.024以上に限る。

3. 壁、柱、床、はり、屋根、軒裏については、防火被覆の取合いの部分、目地の部分その他これらに類する部分を、当該取合い等の部分の裏面に当て木を設ける等当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することが出来る構造とすること。

4. 上記の構造方法のほかに、大臣の認定を受けたものもよい。

※45分準耐火構造は一時間準耐火構造の仕様としてもよい

※30分準耐火構造は一時間準耐火構造、45分準耐火構造の仕様としてもよい

6.2.2 防火被覆材の品質管理方法

検査時期	■ 現場受入時
検査内容	・指定された製品である事を梱包及び出荷証明書で確認
検査報告	■ 工事写真 ■ 出荷証明書

6.3 防火被覆材料の施工管理

6.3.1 防火被覆材の目地等の処理

※防火被覆材の脱落防止や防耐火性能を担保するために、目地の位置に注意すること。

項目	内容
■ 目地位置	■ 間柱の上 ■ 胴縁の上
■ 2枚重ねの場合の目地位置	■ 下張り材と上張り材の目地位置にずれあり

6.3.2 防火被覆処理部への二次部材の取付け

※防耐火性能を担保するために、防火被覆材の貫通部分の処理に注意すること。

■ 設備配管等の仕様

給水管等の用途	覆いの有無	材料	肉厚(mm)	給水管等の外径(mm)		
				給水管等が貫通する床、壁、柱又ははり等の構造区分		
				防火構造	30分間耐火構造	1時間耐火構造
給水管	/	難燃材料又は硬質塩化ビニル	5.5以上	90	90	90
			6.6以上	115	115	115
配電管	/	難燃材料又は硬質塩化ビニル	5.5以上	90	90	90
排水管及び排水管に付属する通気管	覆いのない場合	難燃材料又は硬質塩化ビニル	4.1以上	61	61	61
			5.5以上	90	90	90
			6.6以上	115	115	90
	厚さ0.5mm以上の鉄板で覆われている場合	難燃材料又は硬質塩化ビニル	5.5以上	90	90	90
			6.6以上	115	115	115
7.0以上	141	141	115			

■ 設備配管等の防火被覆処理部の貫通処理

項目	内容
■ 防火措置	■ 貫通部のモルタル等による埋め戻し

■ 防火被覆処理部に取り付ける建具の取付け方法

項目		内容
■ 外壁開口部小口の防火被覆		<input checked="" type="checkbox"/> 木材(木材化粧枠との総厚さ30mm以上) <input type="checkbox"/> 不燃性断熱材(厚さ50mm以上) <input type="checkbox"/> 鋼材 <input type="checkbox"/> 防火被覆材(材料: 厚さ:)
■ 内部間仕切開口部小口の防火被覆	■ 防火区画部	<input checked="" type="checkbox"/> 不燃材料 <input checked="" type="checkbox"/> 木材(30mm以上) <input type="checkbox"/> 不燃性断熱材(厚さ50mm以上) <input type="checkbox"/> 鋼材 <input type="checkbox"/> 防火被覆材(材料: 厚さ:)
	■ 防火区画部以外	<input checked="" type="checkbox"/> 木材(30mm以上) <input type="checkbox"/> 不燃性断熱材(厚さ50mm以上) <input type="checkbox"/> 鋼材 <input type="checkbox"/> 防火被覆材(材料: 厚さ:)

■ 設備機器等の取付け方法 (準耐火構造1時間以下)

項目		内容	
■ 照明器具 (埋め込み型)	■ 防火区画部、防火区画部以外とも	■ 開口面積100cm ² 未満	■ 器具の上面を厚さ30mm以上の不燃性断熱材で被覆
		<input type="checkbox"/> 開口面積200cm ² 未満	<input type="checkbox"/> 器具の上面を厚さ50mm以上の不燃性断熱材で被覆
		<input type="checkbox"/> 開口面積200cm ² 以上	<input type="checkbox"/> 器具の上面を準耐火構造の被覆材で被覆
■ コンセントボックス	■ 防火区画部、防火区画部以外とも	■ 開口面積100cm ² 未満	鋼製コンセントボックスの使用
		<input type="checkbox"/> 開口面積200cm ² 未満	鋼製コンセントボックスの外側を厚さ30mm以上の不燃性断熱材で被覆
		<input type="checkbox"/> 開口面積200cm ² 以上	鋼製コンセントボックスの外側を準耐火構造の被覆材で被覆
■ ダクト配管	■ 防火区画部	■ 開口面積100cm ² 未満	ダクトを厚さ50mm以上の不燃性断熱材で被覆
		<input type="checkbox"/> 開口面積100cm ² 以上	ダクトを準耐火構造以上の被覆材で被覆
	■ 防火区画部以外	■ 開口面積200cm ² 未満	ダクトを厚さ50mm以上の不燃性断熱材で被覆
		<input type="checkbox"/> 開口面積200cm ² 以上	ダクトを準耐火構造以上の被覆材で被覆

6.3.3 防火被覆材施工の品質管理方法

検査時期	■ 防火被覆材施工中 ■ 防火被覆材施工後 ■ 設備配管等の施工後
検査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・防火被覆材の目地位置 ・設備配管の仕様 ・区画貫通部の処置 ・建具開口回りの処置
検査報告	■ 工事写真 ■ 図面(検査記録) □
検査立合	■ 元請業者 ■ 監理者 ■ 監督職員

6.4 燃えしろ層の品質管理

6.4.1 木材等の品質規格と燃えしろ層の厚さ

項目		内容
通常火災に基づく加熱時間		<input type="checkbox"/> 30分 <input checked="" type="checkbox"/> 45分 <input type="checkbox"/> 1時間
<input checked="" type="checkbox"/> 構造用 集成材	品質規格	<input checked="" type="checkbox"/> JAS 1152 集成材の日本農林規格 4.3構造用集成材
	燃えしろ層の厚さ	<input type="checkbox"/> 2.5cm <input checked="" type="checkbox"/> 3.5cm <input type="checkbox"/> 4.5cm
<input type="checkbox"/> 構造用 単板積層材	品質規格	<input type="checkbox"/> JAS 0701 単板積層材の日本農林規格 4.2構造用単板積層材
	燃えしろ層の厚さ	<input type="checkbox"/> 2.5cm <input type="checkbox"/> 3.5cm <input type="checkbox"/> 4.5cm
<input type="checkbox"/> 構造用製材	品質規格	<input type="checkbox"/> JAS 1083-3 製材: 目視等級区分構造用製材 <input type="checkbox"/> JAS 1083-4 製材: 機械等級区分構造用製材
	含水率	<input type="checkbox"/> 15% <input type="checkbox"/> 20%
	燃えしろ層の厚さ	<input type="checkbox"/> 3.0cm <input type="checkbox"/> 4.5cm <input type="checkbox"/> 6.0cm

6.4.2 燃えしろ層の品質管理方法

検査時期	<input checked="" type="checkbox"/> 製品検査時 <input checked="" type="checkbox"/> 現場受入時
検査内容	・指定された製品である事をJASラベル又はJAS印字等で確認 ・耐力上欠点となる節、腐れ、割れ等がないことを確認
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input checked="" type="checkbox"/> 監理者 <input checked="" type="checkbox"/> 監督職員

6.5 燃えしろ層の施工管理

6.5.1 継手及び仕口の接合金物の防火被覆処理

※火災時の加熱による接合部の耐力の低下を防止するため、接合金物への熱の伝達を防ぐ処理を要する。

接合部	項目	内容
■柱とはり	■ボルト頭部	<input type="checkbox"/> 不要
	<input type="checkbox"/> 金物の底面	■被覆あり (<input type="checkbox"/> 2.5cm ■3.5cm <input type="checkbox"/> 4.5cm <input type="checkbox"/>)
	■金物の小口	<input type="checkbox"/> 不要
■柱脚部	<input type="checkbox"/> ドリフトピン頭部	■被覆あり (■1cm <input type="checkbox"/> 2cm <input type="checkbox"/>)
	■金物の側面	■被覆あり (■1cm <input type="checkbox"/> 2cm <input type="checkbox"/>)
	■ボルト頭部	■不要
■棟部	■金物の小口	<input type="checkbox"/> 不要 (<input type="checkbox"/> ピンジョイントの鋼板厚さ9mm以上)
	<input type="checkbox"/> ドリフトピン頭部	■被覆あり (■1cm <input type="checkbox"/> 2cm <input type="checkbox"/>)
	■ボルト頭部	<input type="checkbox"/> 不要
■はりとはり	■金物の小口	<input type="checkbox"/> 不要
	■ドリフトピン頭部	■被覆あり (■1cm <input type="checkbox"/> 2cm <input type="checkbox"/>)
	■ボルト頭部	<input type="checkbox"/> 不要
<input type="checkbox"/> はり継手	■被覆あり (<input type="checkbox"/> 2.5cm <input type="checkbox"/> 3.5cm <input type="checkbox"/> 4.5cm <input type="checkbox"/>)	
	<input type="checkbox"/> 添え板鋼板	
	<input type="checkbox"/> 金物の小口	<input type="checkbox"/> 不要
	<input type="checkbox"/> ドリフトピン頭部	<input type="checkbox"/> 被覆あり (<input type="checkbox"/> 1cm <input type="checkbox"/> 2cm <input type="checkbox"/>)

6.5.2 継手及び仕口の接合金物の防火被覆処理の品質管理方法

検査時期	■継手及び仕口の接合金物の防火被覆処理施工後
検査内容	・木材等による被覆厚さ
検査報告	■工事写真 ■図面(検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	■元請業者 ■監理者 ■監督職員

7 安全・衛生管理

・木工事(構造)施工計画書の7 安全・衛生管理(p.77～78)による。

8 参考文献

- ・図解 木造建築物の防・耐火設計の手引き
(令和6年1月 (公財)日本住宅・木材技術センター)
- ・木造建築物の防・耐火設計マニュアル 大規模木造を中心として(第2版)
(令和5年11月 (一社)日本建築センター)
- ・準耐火構造(集成材建築物)における接合部の防火設計の手引き(改訂版)
(令和6年2月 日本集成材工業協同組合)
- ・講習会修了者のための 木造軸組工法による耐火建築物の設計・施工の手引き
(令和元年9月 (一社)日本木造住宅産業協会)
- ・ここまでできる木造建築のすすめ
(令和7年3月 (一社)木を活かす建築推進協議会)
- ・木でつくる 中大規模建築の設計入門
(令和4年8月 (公財)日本住宅・木材技術センター)

7.2 施工管理図書 追補版の検討②「鉄骨工事施工計画書」

(1) 適用対象とする建築物

- ・主に屋内に鉄骨工事を有するもの

(2) 整備する施工管理図書

①整備する図書：鉄骨工事施工計画書及び関連図書

②取り扱う項目：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）鉄骨工事の項目のうち、小規模な鉄骨工事の施工管理を行う際に求められると想定される必要最小限の項目に限定して取り扱う。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

<https://www.howtec.or.jp/files/libs/6096/202504111556306823.xlsx>



●●●●新築工事

鉄骨工事施工計画書

令和●●年 ●●月

承 諾	

請負者 ●●建設 株式会社

現場代理人	

※非住宅・木造低層小規模建築物(2階建て)において、鉄骨造のEVフレーム及び階段を含む場合の作成例(青字)を示します。
※無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

目 次

鉄骨工事施工計画書

1 総則

- 1.1 適用範囲
- 1.2 適用図書
- 1.3 疑義、変更
- 1.4 その他

2 工事概要

- 2.1 工事概要 (総合施工計画書による)
- 2.2 鉄骨工事 工場製作 概要
- 2.3 鉄骨工事 現場施工 概要

3 工程表

4 施工管理体制

- 4.1 施工管理体制 (工場製作・現場施工)

5 製作要領

- 5.1 使用材料
- 5.2 製作フロー
- 5.3 製作要領
- 5.4 製品検査

6 施工要領

- 6.1 現場施工フロー
- 6.2 施工方法

7 安全・衛生管理 (木工事(構造)施工計画書による)

- 7.1 一般共通事項
- 7.2 現場の管理体制
- 7.3 工事現場の安全・衛生管理
- 7.4 火災防止
- 7.5 巡視
- 7.6 事故発生時の措置

鉄骨工事施工計画書関連図書

8 鉄骨工事 施工図

1 総則

1.1 適用範囲

本施工計画書は●●●●新築工事における
鉄骨工事の工場製作及び現場施工管理方針として適用する。

1.2 適用図書

本工事は下記の仕様書及び設計図に基づいて施工する。

その施工に当たっての優先順位は、下記による。

- (1) 質問回答書、現場説明書、現場説明事項及び追加変更指示書
- (2) 本工事の建築設計図書及び特記仕様書
- (3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版) 7章 鉄骨工事
- (4) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
建築工事監理指針 上・下巻 (令和4年版)
- (5) 日本建築学会 鉄骨工事
建築工事標準仕様書・同解説 JASS6 鉄骨工事 2018年版
鉄骨工事技術指針・工場製作編(2018年改定)
鉄骨工事技術指針・工事現場施工編(2018年改定)
鉄骨精度測定指針(2018年改定)

1.3 疑義、変更

本施工計画書に記載なき事項や、記載事項の質疑変更に関しては
監理者・工事担当者との協議の上で承諾を得て施工する。

1.4 その他

本施工計画書に基づき主たる工事の詳細については、施工要領書を作成し
工事内容及び、作業の進め方等について協力会社及び作業員に周知徹底
させて施工品質の確保に用いる。

2 工事概要

2.1 工事概要

・総合施工計画書の5 工事概要 (p.26)による

2.2 鉄骨工事 工場製作 概要

2.2.1 工場製作期間

令和 ●●年●●月●●日 ～ 令和 ●●年●●月●●日

2.2.2 製作数量

部位	重量(t)	備考
EV受け柱・梁	2.96	
階段	0.41	

2.2.3 製作工場

鉄骨製作工場

●●鉄工株式会社

住 所 ●●●●

電話番号 ●●●-●●●●-●●●●●●

認定番号 国土交通大臣 TFB M-●●●●●●

製作範囲

EV受け柱・梁、階段の鉄骨および付帯鉄骨

2.3 鉄骨工事 現場施工 概要

2.3.1 現場施工期間

令和 ●●年 ●●月 ●●日 ~ 令和 ●●年 ●●月 ●●日

2.3.2 設計仕様

■EV受け柱・梁

鉄骨規模	地上 (2)階 鉄骨最高高さGL +(6.93)m X方向 (2.02)m ・Y方向 (2.26)m
主要部材	柱 (符号 sC1) 部材(200×200×12)形状(角形) 大梁 (符号 sG1) 部材(244×175×7×11)形状(H型フルウェブ梁)
アンカーボルト	(3-M16、L=48C) 合計本数 (12本) 根巻コンクリ (有 ・ (無))

主要部材

■階段

鉄骨規模	地上 (2)階 鉄骨最高高さGL +(3.0)m 幅 (1.0)m・長さ (3.6)m
主要部材	柱 (符号) 部材(139.8×6.0) 形状(鋼管) 梁 (符号) 部材(200×200×8×12) 形状(H型フルウェブ梁) ササラ (符号) 部材(19x300) 形状(平鋼)
アンカーボルト	(2-M16、L=400) 合計本数 (6本) 根巻コンクリート (有 ・ (無))

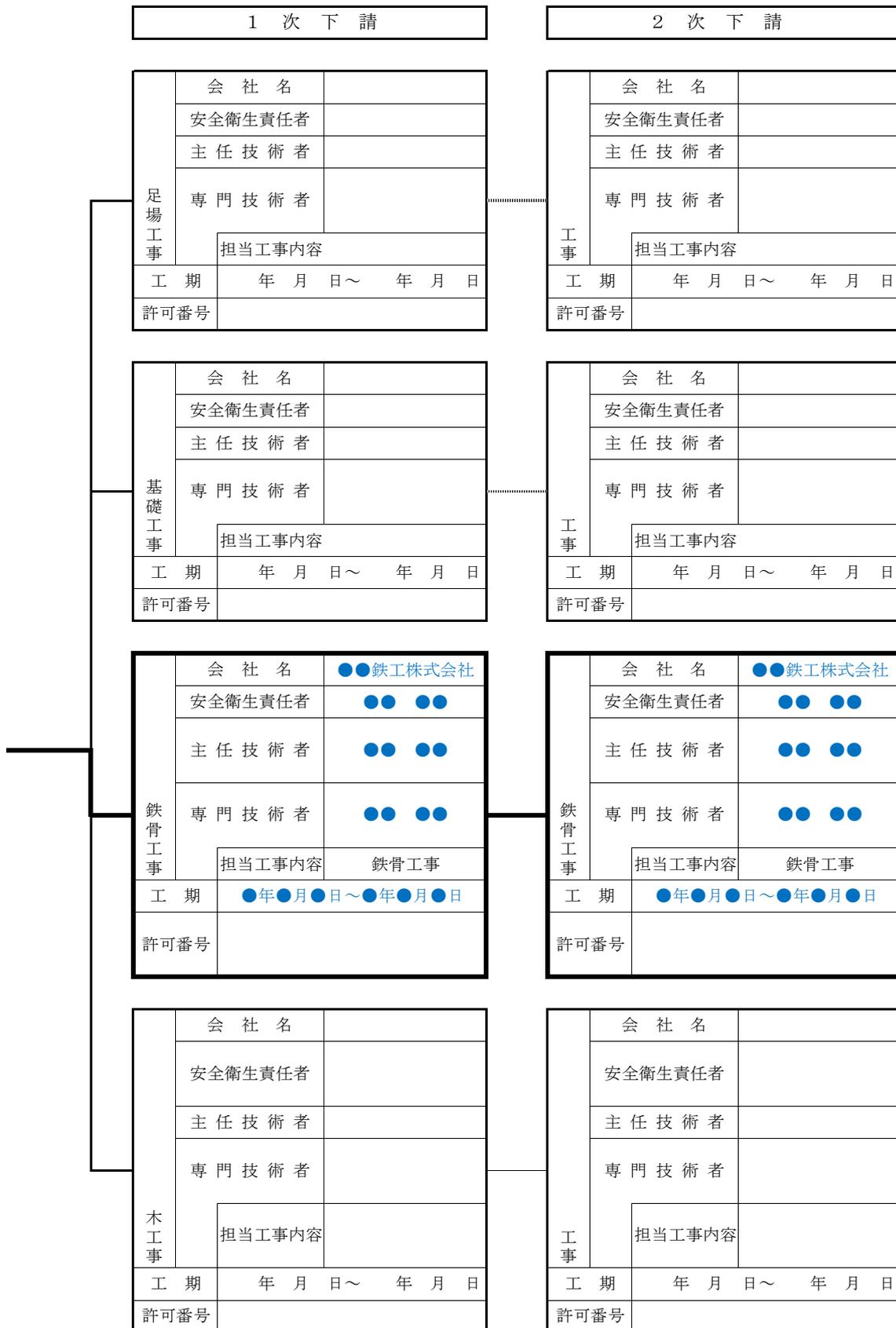
2.3.3 建方概要

総重量	2.96t	総ピース数	17
最大柱重量	0.56t	最大梁重量	0.01t
最大柱長さ	8.18m	最大梁長さ	2.26m
建方機械	ラフター25t	補助機械	

4 施工管理体制

4.1 管理体制図(工場製作・現場施工)

※工事全体の施工管理体制は総合施工計画書の4.1 管理体制図(p.29)による。



5 製作要領

5.1 使用材料

(a) 鋼材

種別	規格	材質	メーカー名
■ H形鋼	■ JIS G3136	SN400B	●●●
	■ JIS G3101	SS400	●●●
■ 角型鋼管	■ JIS G 3444	STK400	●●●
	□		
■ 鋼管	■ JIS G 3444	STK400	●●●
	□		
■ 平鋼	■ JIS G3101	SS400	●●●
	□		

(b) ボルト類

種別	規格	材質	メーカー名
■ トルシア形 高力ボルト	JSS II 13 ABR	SNR400B	●●●
■ 高力ボルト	JSS II 09	S10T	●●●

(c) 溶接材料

・組立溶接及び本溶接に使用する溶接棒・ワイヤは以下の通りとする。

(1) 被覆アーク溶接

・アーク溶接棒は、JIS Z 3211 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒の規格品とする。

(2) ガスシールドアーク溶接

・ガスシールドアーク溶接ワイヤは、

JIS Z 3312(軟鋼及び高張力鋼溶接用CO2ソリッドワイヤ)または、

JIS Z 3313(軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ)の規格品と

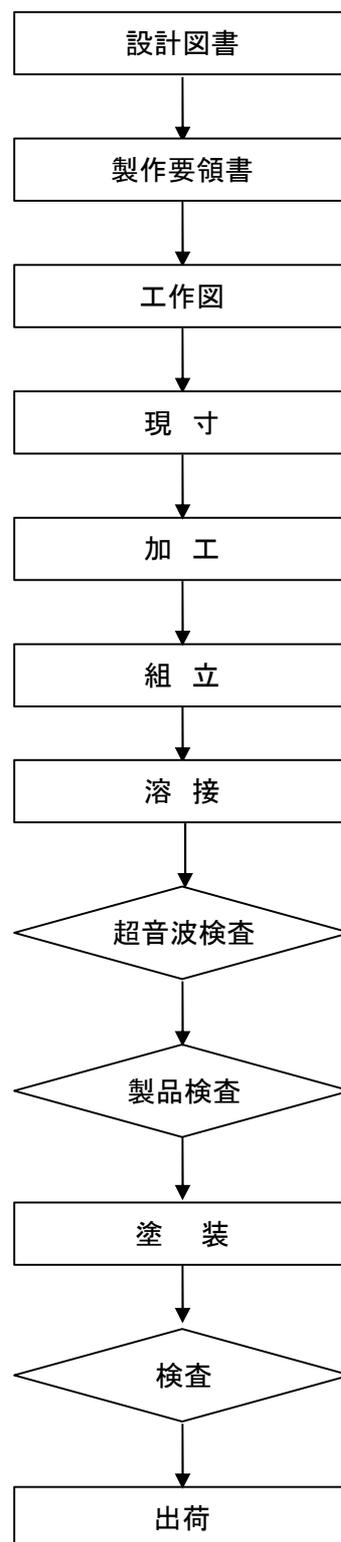
・シールドガスは、JIS Z 3253(溶接及び熱切断用シールドガス)の規格品とする。

(d) 錆止め塗料

規格番号	規格種別	製品名	メーカー名
■ JIS K5674	1種	●●●	●●●

・塗料の色については、サンプルの提出後、指示を受けるものとする。

5.2 製作フロー



5.3 製作要領

5.3.1 加工

(a) けがき

- ・ 定規、型板を使用して正確にけがく。
- ・ 曲げ加工される外面など、欠陥のおこりやすい箇所には、ポンチの使用は避ける。
- ・ ペイント等により、部材マークなど正確に記入する。

(b) 切断

- ・ ガス切断は、原則として自動ガス切断とするが、やむを得ぬ場合は手動ガス切断とする。
- ・ 切断面には著しい凹凸、切欠き、まくれ、スラグの付着などがないようにする。
- ・ せん断切断の場合、鋼板の板厚は13mm以下とする。
- ・ 切断後の切り口のまくれ、かえりはグラインダにて除去する。

(c) 開先加工

- ・ 開先加工は機械加工により行うことを原則とする。

(d) 曲げ加工

- ・ 曲げ加工は、プレスにより鋼材の品質を損なわぬように注意し常温加工を原則とするが、やむを得ぬ場合は加熱加工とする。
- ・ ハンチ部等の曲げ加工は、板厚の10倍以上の外側曲げ半径を確保する。
- ・ 加熱加工は、赤熱状態(850～900℃)で行い、青熱せい性域(200～400℃)で行ってはならぬ。

(e) 逆ひずみ

- ・ あらかじめ逆ひずみをつける場合は、プレス等により鋼材の品質を損なわないように行う。

(f) 孔明け

- ・ 接合面の孔明けは、原則ドリルで行う。
- ・ 普通ボルト、アンカーボルト、鉄筋貫通孔は、ドリルあけを原則とするが、板厚 13mm以下の場合にはせん断孔明けとすることができる。
- ・ 孔周囲のばりは、グラインダー等により除去する。
- ・ 孔径は下記の通りとする。

種別	ボルト公称軸径 d	孔径	備考
高力ボルト	$d < 27$	$d + 2.0\text{mm}$	
普通ボルト	-	$d + 0.5\text{mm}$	
アンカーボルト	-	$d + 5.0\text{mm}$	

(g) 高力ボルト接合部摩擦面の処理

- ・ 摩擦面は組立てに先立ち黒皮・浮錆・油等を除去する。
- ・ 摩擦面は、ショットブラスト処理等を行い、自然発錆によりすべり係数0.45以上を確保する。

5.3.2 組立

(a) 組立準備

- ・ 組立に先立ち各部材の記号、寸法、角度、曲り、反り及びねじれ等他、切断面や孔周辺にまくれ等のない事を確認し、組立順序に従い部材毎に整理する。
不具合がある場合、部材を取り替えるか補修を行う。

(b) 組立治具

- ・ 組立は定盤、組立台、ジャッキ等の組立治具を用いて行い、組立精度を確保する。

(c) 組立精度

- ・ 溶接による変形及び歪を少なくする為に適当な逆歪を加える。また溶接による収縮量を見込んで出来上がり寸法、形状を正確に保つようにする。

(d) 組立時の注意事項

- ・ 組立及び組立溶接に際しては、工作図との寸法、部材記号及び材質を確認しながら正確に行
- ・ 部材の取り扱いが丁寧に行い、組立時に不用意なハンマ打ちを避け、やむを得ずハンマ打ちを行う場合は間接打ちとし母材の保護を図る。
- ・ クランプ等での母材損傷に注意する。

5.3.3 溶接

(a) 溶接技能者

- 溶接作業に従事する溶接工は、下記に示す資格を有する者とする。
但し、突合溶接・隅肉溶接の本溶接はAW検定資格者が行う。

種別	資格	
■ 手溶接	JIS Z 3801 「手溶接技術検定における試験方法及び判定基準」	A-3F A-3H A-3V
■ 半自動溶接	JIS Z 3841 「半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準」	SA-3F SA-3H SA-3V

(b) 溶接機

- 溶接機及び付属用具は、使用する溶接材料の種類に応じた十分な容量と性能を有し、安全に作業できるものとする。

(c) 溶接材料の管理

- 溶接ワイヤーは、入念に取扱い、被覆材の剥脱、汚損、変質、吸湿したものは使用しない。

(d) 溶接施工

(1) 一般事項

- 作業場所の気温が -5°C を下回る場合、溶接を行わない。
- 作業場所の気温が -5°C から 5°C までの場合は、溶接線から100mm程度の範囲を適切な方法で加熱して、溶接を行う。

(2) 溶接順序及び姿勢

- 溶接は変形・残留応力・拘束力を最少とするような順序で回転治具等を使用し出来るだけ下向き又は水平姿勢で行う。
- 溶接量の多い部分を施工する場合には、一度に1箇所の溶接を完了させず、溶接量が均等になるような順序でおこなう。

(e) 溶接個所の管理

(1) 溶接前の清掃

- 溶接開始前の水分・著しい錆・浮いたミルスケール等溶接欠陥の発生要因となるものは、溶接前に除去し清掃する。

(2) 溶接中の清掃

- 手溶接における棒継ぎ箇所及び自動溶接で一度アーク溶接を止めた部分のクレーターは再スタート前にスラグを除去する。
- 多層溶接においては、各層毎にスラグやスパッタを除去し欠陥のないことを確認してから次の溶接を行う。

(3) 溶接後の仕上・清掃

- ・溶接終了後のスラグ除去は、スクレーパーまたは、チッパーで行い、スパッタ除去は、スクレーパーまたは、グラインダーで行う。

(f) 不良溶接部の補修

- ・不良溶接部の補修は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)7章鉄骨工事 7.6.13 溶接部の不合格箇所の補修による。

5.3.4 塗装

(a) 一般事項

- ・ 塗装を施す部分は、施工図による。
- ・ 塗装仕様については、下記の通りとする。

規格番号	規格名称	種類	塗装回数	標準塗膜厚 ($\mu\text{m}/\text{回}$)
■ JIS K5674	鉛・クロムフリー 錆止めペイント	1種	1	30

(b) 素地調整

- ・ 汚れ・付着物は、スクレーパ・ワイヤーブラシなどで除去する。
- ・ 油類は、揮発油ぶきで除去する。
- ・ 浮いた黒皮・さびは、スクレーパ・ワイヤーブラシ・研磨布などで除去する。

(c) 塗装

- ・ 塗装はハケ塗り、またはスプレー塗りとし、ハケ目・むら・すけ・だれ等のない均一な塗装面になるようにする。

5.4 製品検査

5.4.1 製品検査

(a) 検査項目並びに抜取率

- ・ 小梁・間柱は、10～20%検査する。
 - ①寸法並びに形状検査 ②取合部検査 ③外観検査
- ・ 合否判定は、JASS 6 精度基準に基づく。

(b) 検査方法

①寸法並びに形状検査

- ・ 部材長さ・せい・階高・大曲り・ねじれ・仕口長さなどの基本寸法を鋼製巻尺や測定器具を使用して計測する。但し、形状に関しては基準を逸脱していると思われる箇所に対してのみ適正な器具にて測定を行う。

②取合部検査

- ・ 工事現場接合の高力ボルト孔を目視、又はコンベックスルールを使用して計測する。

③外観検査

- ・ 部材表面のきず、溶接ビートの形状・寸法及び表面欠陥(ピット、オーバーラップ、アンダーカット、割れ、ビート継ぎ不良、まわし溶接不良、ビート表面不整)、高力ボルト接合部の摩擦面の状態などを目視検査する。

(c) 検査基準

- ・ 製品の許容寸法差は、JASS 6 付則6の内付表4「鉄骨精度検査基準」による。

5.4.2 非破壊検査

(a) 検査の種類

- ・ 超音波探傷検査によって、工場溶接部における柱、梁の完全溶込み溶接部を検査対象とする。

(b) 検査方法

- ・ 検査方法は、日本建築学会『鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説』を適用して行う。

(c) 合否判定

- ・ 溶接部の合否の判定は、日本建築学会『鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説』の7.2.1(1)『溶接部に引張応力が作用する場合』により判定する。

(d) 処置

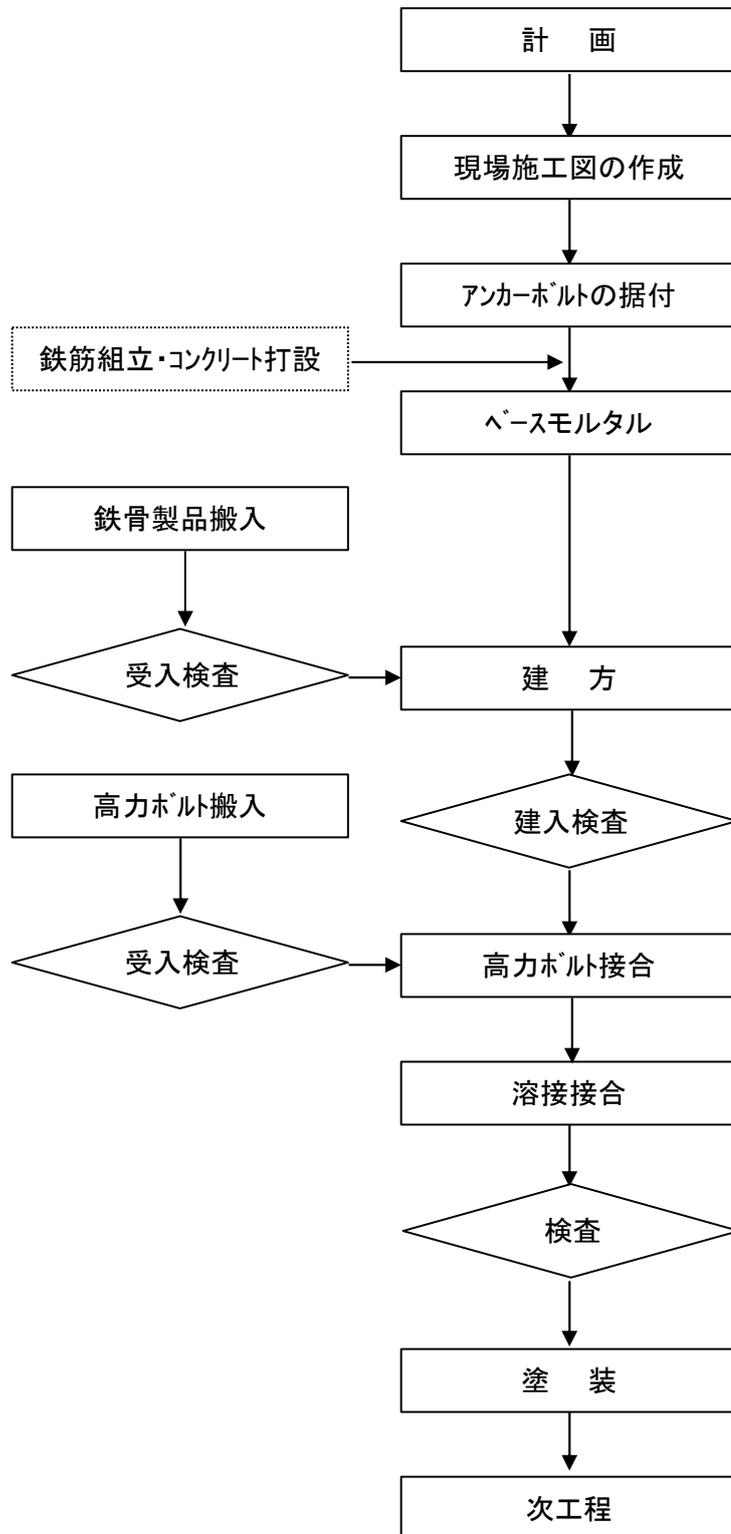
- ・ 検出された不合格溶接部は、すべて補修を行い、再検査する。
- ・ 合格きず(判定基準は、日本建築学会『鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説』の7.2.1(1)』による判定で行う)については、補修は行わない。

(e) 検査技術者

- ・ 検査技術者は、建築鉄骨超音波検査技術者又は、ND(UT 2・3種)の有資格者とする。

6 施工要領

6.1 現場施工フロー



6.2 施工方法

施工方法は公共建築工事標準仕様書 7章鉄骨工事 10節工事現場施工による。

6.2.1 建方精度

- ・建方等の工事現場施工の精度は、JASS 6 付則6[鉄骨精度検査基準]付表5[工事現場]による。

6.2.2 アンカーボルトの設置等

- ・アンカーボルトの心出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ、適切な機器等で正確に行う。
- ・構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状並びに寸法は、設計図書による。
- ・柱底均しモルタルは、設計図書による。

6.2.3 搬入

- ・鉄骨製作工場で加工された製品の工事現場への搬入に当たり、必要に応じて、養生を行う。
- ・部材に曲がり、ねじれ等が生じた場合は、建方に先立ち修正する。

6.2.4 建方

- ・建方の組立順序、建方中の構造体の補強の要否等の検討を行い、自重その他の荷重に対して安全な方法とする。
- ・本接合に先立ち、ひずみを修正し、建入れ直しを行う。
- ・吊上げの際に変形しやすい部材は、適切な補強を行う。

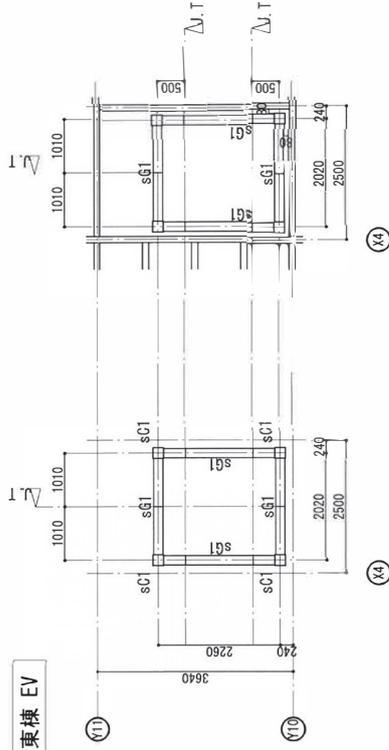
7 安全・衛生管理

- ・木工事(構造)施工計画書の7 安全・衛生管理(p.77～78)による。

鉄骨工事施工計画書関連図書

8 鉄骨工事 施工図

- ・別紙(p.142～143)の施工図による。



2階梁伏図 1/100

屋根梁伏図 1/100

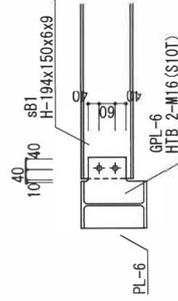
継手リスト 1/20

符号	断面	sg1
	H-244x175x7x11	
	4φ 40	
	2PL-9x175x290	
	4PL-9x70x290	
	2PL-9x140x170	

(SUSS-H97)による

フランジ	HTB 16-W20	2PL-9x175x290
ウェブ	HTB 4-W20	4PL-9x70x290
		2PL-9x140x170

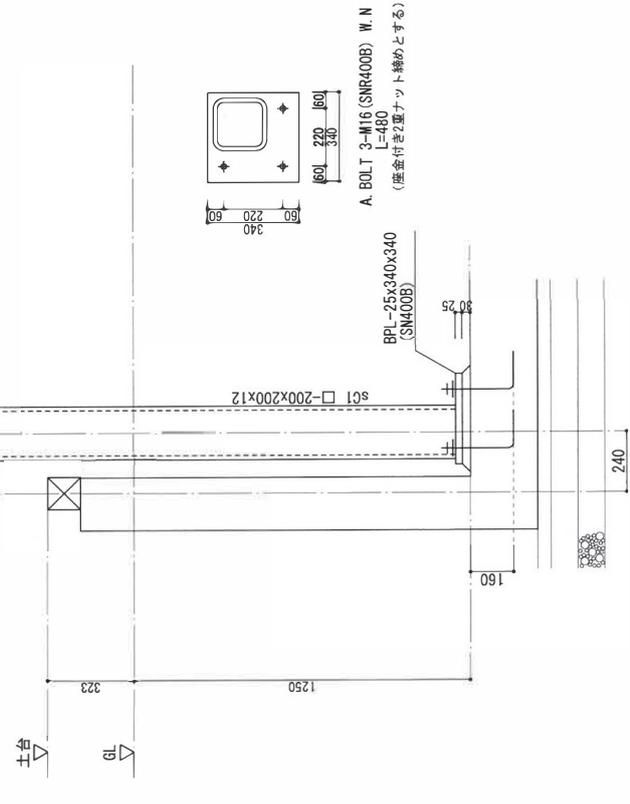
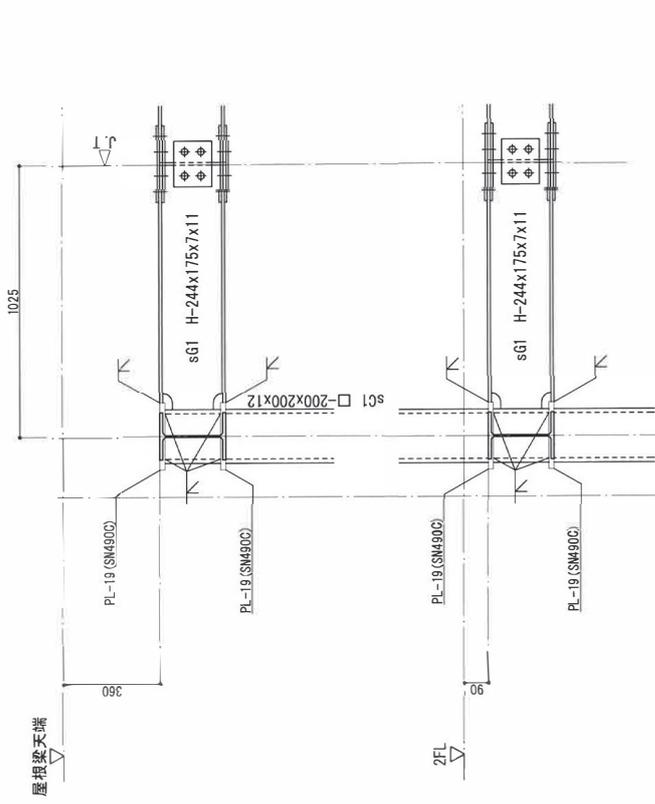
特記なき限り
1. 高力ボルトはS10Tとする。
2. プレートは材質は鋼材と同じとする。



SB1取付詳細図 1/20

符号	断面	備考
sC1	□-200x200x12	DCR295
sg1	H-244x175x7x11	SM400B
sb1	H-194x150x6x9	SS400

鉄骨の素地ごしえらえ及び錆止め塗料については
建築工事標準仕様書 18 算塗装工事に明記されており、
意匠図の特記仕様書にそのことが示されているので
重複をさけるため、あえて構造図にはそのことを明記していません



X方向軸組図 1/100

Y方向軸組図 1/100

第8章

参考資料

第8章 参考資料

本章では、令和5年度に整備した「総合施工計画書」及び「木工事（構造）施工計画書」の添付図書の作成例を紹介します。

これらの作成例は図書上に作成概要や記載すべき事項等を追記しており、実物件にて図書を整備する際の参考にして下さい。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、整備する図書、記載すべき事項の追加・省略・代替等の検討が必要です。

次ページ以降に下記の施工管理図書を掲載します（No. は2章の重点施工管理図書の様式の一覧（表2.1～2.2）のNo. を示します）。

着工前準備段階

総合施工計画書に含まれる図書

- ・ No. 6 工程表
- ・ No. 24 総合仮設計画図
- ・ No. 25 足場計画図

施工計画段階

木工事（構造）施工計画書に含まれる図書

- ・ No. 49 建て方計画図

No.6 工程表

工事全体のスケジュールや各作業に必要な工程をまとめつつ、それぞれの作業で必要となる期間や、具体的な手順などの情報を網羅した工程表を作成する。

本工程表を全ての工事関係者が共有することにより、役割分担、作業手順、各工程間の関連性が明確になり、納期厳守の徹底、効率的な工事の進行による、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

木材調達や各種施工管理図書の作成等、準備期間も含めて作成することが重要である。

①工程表

②工程表(工程相関明示)

No.24 総合仮設計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、現場に必要な仮設備、建物、各種スペース、楊重計画等の全体的な配置等を総合的に計画する。

本計画図を全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

No.25 足場計画図

足場計画は足場上での作業性確保が最重要であるが、敷地の状況、建物の構造・規模、建て方工事を始めとする工事内容等の諸条件を踏まえた計画図を作成する。

本計画図を関連する工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

AK-01 足場組立図

AK-02 足場計画図(建て方前)

AK-03 足場計画図(建て方後)

AK-04 足場矩計図

足場計画図 (建て方前)

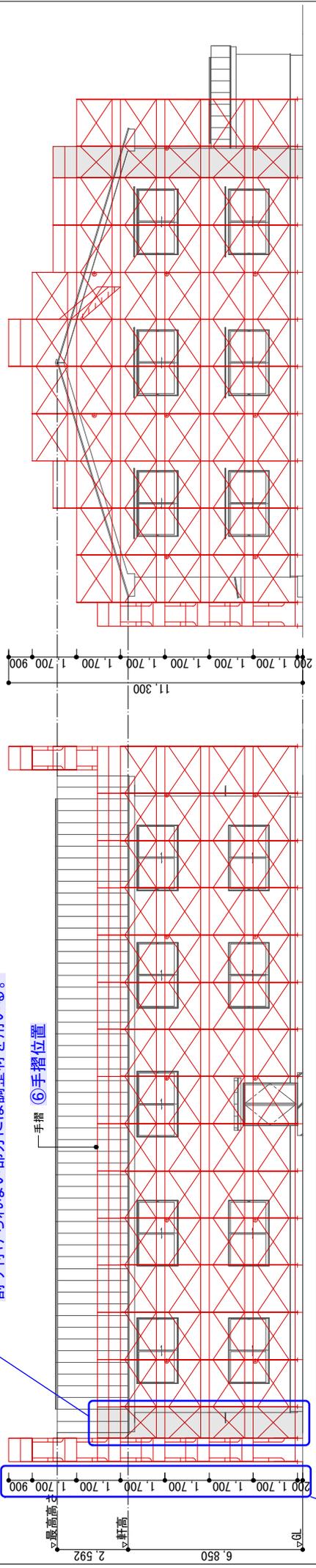
- 作成概要
足場上での作業性や安全性を踏まえて、建て方前に必要となる足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・根がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。
- 記載事項
①足場及び足場の基本割付寸法
②昇降設備位置
③頭つなぎ位置
④根がらみ位置
⑤壁つなぎ位置
⑥手摺位置

凡例



① 建て方前施工足場

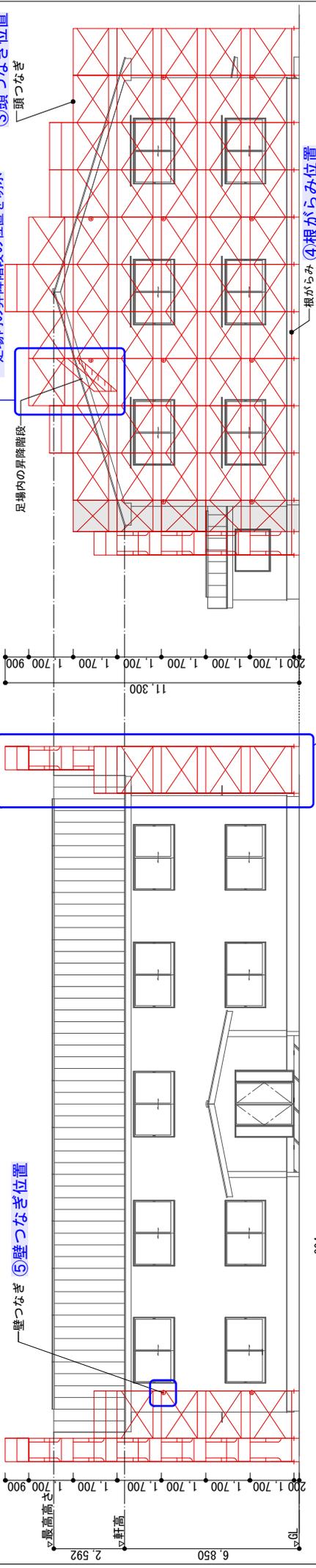
調整材使用箇所
標準サイズの足場(本計画では@1,829)で
割り付けられない部分には調整材を用いる。



北立面図(外側)

①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインチサイズ(914×1829)の枠組足場にて割付け)

①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインチサイズ(914×1829)の枠組足場にて割付け)



東立面図(外側)

底の出が大きい場合は、
底の出をかわした外側にも足場を設ける。

南立面図(外側)

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023.10	STION	SCALE A3 S-1:150	NO. AK-02
				NAME OF PLAN 足場計画図(建て方前)				JBN+PWA

No.49 建て方計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、建て方が円滑かつ安全に進み、品質を確保できるよう、資材や地組のスペース、重機の配置、揚重計画等を総合的に計画する。

本計画図を建て方に関わる全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

補足事項

令和6年度、低層Gでは、地域工務店等が携わった実施工建物（実建物）を対象に当該工務店の現場管理者が施工管理図書（実建物版）の作成を行いました。

また、地域工務店・地域総合建設事業者・サプライチェーン系列施工会社等が作成した実建物の施工管理図書の収集・分析、及び、これらの事業者に所属する実務者に対して重点施工管理図書の様式（ひな形図書）の実用性についてのヒアリングも行いました。

これらの作業を通じて重点施工管理図書の様式（ひな形図書）の地域工務店による実用性の検証を行うと共にひな形図書の精査・拡充を行いました。

ここでは「総合施工計画書」と「木工事（構造）施工計画書」の精査・拡充の概要について紹介します。

(1) 重点施工管理図書の検証の概要

「総合施工計画書」と「木工事（構造）施工計画書」については、表 補.1 及びの表 補.2 の内容について精査・拡充を行いました。

また、低層小規模建築物であっても用途や規模によっては準耐火建築物及び鉄骨工事にかかる施工計画書が必要となる場合があることから、表 補.3 の内容について拡充を行いました。

表 補.1 総合施工計画書の精査・拡充の概要

No.	項目		R6年度の精査・拡充内容
-	本計画書の作成例		実建物を対象に作成
2	工事概要		地域や建物の実状を示す項目の追加
4	施工管理体制	4.1 管理体制図	協力事業者の拡充
		4.2 非常時連絡体制図	関係主体の拡充
5	工程管理・品質管理計画	5.1 工程表の作成方針	発注者・設計者が関与する工程に関する留意事項の追記
		5.3 工程打合せの開催概要	確認・調整を要する事項の追記
7	近隣の安全確保・環境配慮		仮設計画との関連を追記
9	プレカット図		見積用・施工管理用の区分を整理

表 補.2 木工事（構造）施工計画書の精査・拡充の概要

No.	項目		R6年度の精査・拡充内容
-	本計画書の作成例		実建物を対象に作成
4	施工管理体制		協力事業者の拡充
6	施工要領	6.7 建て方の施工計画 6.7.3 搬入計画	建物規模や敷地条件に応じた留意事項を追記

表 補.3 その他の施工計画書拡充の概要

	項目	R6年度の精査・拡充内容
1	準耐火建築物への対応	「防耐火処理等工事施工計画書」の様式 及び作成例の追加整備
2	鉄骨造を含む場合への対応	「鉄骨工事施工計画書」の様式 及び作成例の追加整備

(2) 施工管理図書を作成した地域工務店の概要

ここでは、重点施工管理図書の様式（ひな形図書）の検証を行うために施工管理図書の作成を行った地域工務店の概要について紹介します。

当該工務店は、元請として非住宅・木造低層小規模建築物の施工管理についての一定の実績を有する工務店であり、地域工務店の類型（1章 表 1.3）のうち、該当する類型を表 補.4 に示します。（表中 No. 3 に該当）。

表 補.4 地域工務店等の類型

: 施工管理図書を作成した地域工務店の類型

No.	①非住宅 木造建築物の 元請／下請の別	②非住宅木造建築物 の施工経験	③公共工事 の受注実績	④建設業許可の 取得状況	⑤現場管理者の 在籍状況
1	元請	多数の実績あり	多数あり	特定	監理技術者 が在籍
2	元請	非住宅木造建築物の設計・施工の一定の経験あり	一定の実績あり	特定	監理技術者 が在籍
3	元請	住宅の仕様・構法を準用できる非住宅木造建築物の建設の経験あり	実績はあり	特定	監理技術者 が在籍
4	下請	主に住宅生産に従事しており、非住宅木造建築物の建設にこれから取り組む意欲あり	なし	一般 (今後、特定を取得予定)	主任技術者 が在籍
5	下請	現時点では住宅生産に従事し、非住宅木造建築物の建設に取り組む予定をしていない	なし	一般	主任技術者 が在籍

参考文献

本手引きの作成においては、以下の資料を参考としました。

- ・ 地域工務店が取り組む中大規模木造建築物の施工管理マニュアル
R4 年度版（令和 5 年 2 月 （一社）JBN・全国工務店協会）
- ・ 中大規模木造建築のプレカット図の読み方セミナーテキスト
（令和 7 年 2 月 （一社）中大規模木造プレカット技術協会、（公社）日本建築士会連合会）
- ・ 施工計画書ひな形集(改訂版)（令和 4 年（一社）日本建設業連合会関西支部 IT 専門部会）
- ・ 中大規模木造建築の担い手講習テキスト（令和 3 年 10 月 日本集成材工業協同組合）
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
- ・ 木質工事特記仕様書（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）
- ・ 木造軸組接合部標準図（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）
- ・ 図解 木造建築物の防・耐火設計の手引き
（令和 6 年 1 月 （公財）日本住宅・木材技術センター）
- ・ 木造建築物の防・耐火設計マニュアル 大規模木造を中心として(第 2 版)
（令和 5 年 11 月 （一社）日本建築センター）
- ・ 準耐火構造（集成材建築物）における接合部の防火設計の手引き（改訂版）
（令和 6 年 2 月 日本集成材工業協同組合）
- ・ 講習会修了者のための 木造軸組工法による耐火建築物の設計・施工の手引き
（令和元年 9 月 （一社）日本木造住宅産業協会）
- ・ ここまでできる木造建築のすすめ（令和 7 年 3 月 （一社）木を活かす建築推進協議会）
- ・ 木でつくる 中大規模建築の設計入門（令和 4 年 8 月 （公財）日本住宅・木材技術センター）

ウッド・チェンジ協議会 低層小規模グループ参加企業等名簿

主査・委員長：大橋 好光（東京都市大学名誉教授）

委員：（参加企業・団体）

（一社）中大規模木造プレカット技術協会	https://www.precut.jp/
（一社）JBN・全国工務店協会	https://www.jbn-support.jp/
（一社）日本木造住宅産業協会	https://www.mokujukyo.or.jp/
日本マクドナルドホールディングス（株）	https://www.mcd-holdings.co.jp/
SMB建材（株）	https://www.smb-kenzai.com/
（株）シェルター	https://shelter.inc/
住友林業（株）	https://sfc.jp/
（株）竹中工務店	https://www.takenaka.co.jp/
東急建設（株）	https://www.tokyu-cnst.co.jp/
ナイス（株）	https://nice.co.jp/
ポラス（株）	https://www.polus.co.jp/
三菱地所（株）	https://www.mec.co.jp/
ライフデザイン・カバヤ（株）	https://lifedesign-kabaya.co.jp
中国木材（株）	http://www.chugokumokuzai.co.jp
銘建工業（株）	https://www.meikenkogyo.com/
事務局：（公財）日本住宅・木材技術センター	https:// www.howtec.or.jp/
（株）アルセッド建築研究所	https://www.alsed.co.jp/

非住宅・木造低層小規模建築物施工管理図書作成の手引き 令和6年度改訂版

～発注者の満足度の高い現場運営と施工管理図書の活用に向けて～

令和7年3月発行

発行 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

〒136-0075 東京都江東区新砂3-4-2

TEL 03-5653-7662 FAX 03-5653-7582

<https://www.howtec.or.jp/>

編集・制作／株式会社アルセッド建築研究所

本手引きは令和6年度 林野庁補助事業

「工務店等支援体制の構築」にて作成しました。

本手引きの文章・写真・表等の無断複製・転載を禁じます。